

僕たちの未来を調べる!

人口減少社会で僕らはどう成長する?

米澤明希

2017年8月27日

0. はじめに

小学6年生である僕も、来年春には、中学1年生になります。

少しずつ、大人に向かっていきます。そう思うと、自然と先の先まで考えてみたくなりませう。

3年先に迫った2020年の東京オリンピックも思い浮かびますが、「これから将来どんなことが起こるだろう?」といったふとした疑問に始まり、「高校、大学へと進学した後、働くことになるのだけれど、どんな仕事をするようになるのだろう?」

「自分が大人になれば、当然、僕の両親ともに年老いていく

老人がさらに増えることになるのだな」、「未来が良くなるために、

僕らは何が出来るだろう?」など様々なことで頭がいっぱいになり

ました。そんな時、「そうだ、小学生最後の調べ学習は

『未来』をテーマにしよう」と思い立ちました。

そして、図書館や本屋さんで、参考図書を集めている中、

「未来の年表」という本に出会いました。僕は歴史も好き

なので「年表」の文字がタイトルにある、この本が気に入りました。

ところが、

その内容は面白いものでした。明るくない未来でした。

少子高齢化が進み、いつか人口が減る話はニュースで聞いた
ことがありました。2020年の五輪後、東京も2025年をピーク
に減少に転じると予測されています。その時、僕たちは20歳
です。まだ20歳と言った方がいいかもしれませんが、その先が気になり
ます。25歳となる、2030年には東京郊外にもゴースタウンが増え、
また、IT人材が不足し社会に混乱が生じると見込まれてい
ます。40歳となる2045年には、東京都民の3人に1人が高
齢者となり、45歳となる2050年には、社会保障制度の破たんの
可能性があるようです。60歳となる2065年には、すいぶん人口は
減り、無人の国土に外国人が占拠する可能性があるようです。
こんな不安な予想が出されていますが、それでもがんばって
長く生きていきたいです。でも生きていけば110歳となる、2115年には、
日本の人口は半分以下になるようです。信じたくないけど、この
参考図書以外に何冊かの参考図書を読みましたが、おおむね
同じような主張だったので、目を背けてもしょうがない事実だと
思いました。「おまげさぞ！」との気合いだけでは解決しない問題
が多いけど、僕なりの「僕たちの未来」についてのリサーチレポートを作成しました。

目次

0. はじめに

p1

(目次)

p3

1. 人口減少日本：未来の年表より

p5

(1) 僕たちの予定表

(2) 「えっ、これが未来の年表!?!」

(参考資料1) 人口減少カレンダー

(参考資料2) 日本の人口推移(過去・未来)

(3) 僕たち小学生に覚悟しても学ぶべきこと

2. 準備：経済や社会の仕組みを学ぶ

p14

(1) 経済の仕組みについて

(2) 国の財政、税金・社会保障

(参考資料3) 国の財政の状況について

(3) 日本の景気を良くするには?

(4) 人口減少を食い止めるには?

(参考資料4) 移民を受け入れた場合、人口はこう変わる

(5) 外国人労働者・移民と国際的な見方

(参考資料5) 世界の合計特殊出生率

3. 日本の未来の関連図書を読む

p37

(1) 「未来の年表」(参考図書A)

(2) 「糸宿小ニッポロの衝撃」(参考図書B)

(参考資料6) 東京の人口増減関連データ

(3) 「限界国家」(参考図書C)

(4) その他の図書

(5) 大人になったらどんな仕事に就こうか?

(参考資料7) 職業別代替可能確率

4. 僕たちの未来のディッサン

p56

(1) これまでの議論の整理

(2) 僕たちの未来を良くするには? (まとめ)

5. 参考図書・参考資料

p59

1. 人口減少日本：「未来の年表」より

1. 人口減少日本:「未来の年表」より

(1) 僕たちの予定表

僕は2005年生まれ。今年2017年、小学6年生。同じ学年のみんなであれば似たような予定になるでしょう。

2018年春 中学生になる(中学1年)。(1年後)

2020年 東京、札幌(中学3年) (3年後)

2021年 高校生になる(高校1年) (4年後)

2024年 大学生になる(かたがな) (7年後)

2025年 20才、成人 (8年後)

(成人を18才へとする議論もあるらしいが……)

2028年 大学卒業し社会人となる (11年後)

そのあと、日本にいるのか海外にいるのか分からない。どんな仕事に就くかも、いろいろな可能性があるのだと思う。大学卒業後、大学院へいく人もいるでしょう。

30才前後(2035年前後)には、結婚し、自分にも家族をつくることになっているかな。これに限らず、みんなもきっと自分の未来に向けて、たくさんの夢や期待があると思います。

そして、「未来の年表」を手にしてみたのです。

(2) 「え、これが未来の年表!？」

「未来の年表」(参考図書A)を開いてみると、「人口減少カレンダー」がある(参考資料1)。「人口減少?あれ?いいこと書いていないのか?」。そして、僕たちの予定表と重ねると、

僕たちの予定	未来の年表 / 人口減少日本
2018年(中1)	18才人口が大幅減、国立大も倒産
2020年(中3)	東京五輪、出産可能な女性の数減少
2021年(高1)	祖父母介護で父母の離職増!
2022年(高2)	「ひとり暮らし社会」本格化!
2024年(19才)	団塊世代が75歳以上、社会保障費大!
2025年(20才)	東京都の人口ピーク!
2027年(大4)	輸血心器量不足、手術だいじょうぶ?
2030年(25才)	東京郊外にもゴーストタウンが広がる
2033年(28才)	古いインフラの維持更新 = 5.5兆円
2035年(30才)	「未婚者大国」? 結婚しなさいのか?
2045年(40才)	東高都民の3人に1人が高齢者!
2050年(45才)	居住地域の20% = 誰も住まない土地へ

(参考資料1) 人口減少カレンダー

人口減少カレンダー

2017	「65〜74歳」人口が減り始める
2018	75歳以上人口が「65〜74歳」人口を上回る
2018	18歳人口が大きく減り始める。やがて国立大学も倒産の懸念
2019	世帯数が5307万とピークを迎える
2019	IT(情報技術)を担う人材がピークを迎え、人手不足が顕在化し始める
2020	女性の過半数が50歳以上となり、出産可能な女性数が大きく減り始める
2021	団塊ジュニア世代が50代に突入し、介護離職が増え始める
2022	団塊世代が75歳に突入し、「ひとり暮らし社会」が本格化し始める
2023	団塊ジュニア世代が50代となり、企業の人件費はピークを迎える
2024	団塊世代がすべて75歳以上となり、社会保障費が大きく膨らみ始める
2025	東京都の人口が1398万人とピークを迎える
2026	高齢者の5人に1人が認知症患者(約730万人)となる
2027	献血必要量が不足し、手術や治療への影響が懸念されるようになる
2030	団塊世代の高齢化で、東京郊外にもゴーストタウンが広がる
2030	ITを担う人材が最大79万人不足し、社会基盤に混乱が生じる
2033	空き家が2167万戸を数え、3戸に1戸は人が住まなくなる
2033	老朽化したインフラの維持管理・更新費用が最大5兆5000億円程に膨らむ
2035	男性の3人に1人、女性は5人に1人が生涯未婚という「未婚大困」になる
2039	死亡者数が167万9000人とピークを迎え、火葬場不足が深刻化する
2040	全国の自治体の半数近くが「消滅」の危機に晒される
2040	団塊ジュニア世代がすべて65歳以上となり、大量退職で後継者不足が深刻化する
2042	高齢者数が3935万2000人とピークを迎える
2045	東京都民の3人に1人が高齢者となる
2050	世界人口が97億3000万人となり、日本も世界的な食料争奪戦に巻き込まれる
2050	現在の居住地の約20%が「誰も住まない土地」となる
2050	団塊ジュニア世代がすべて75歳以上となり、社会保障制度の破綻懸念が強まる
2053	総人口が9924万人となり、1億人を割り込む
2054	75歳以上人口が2449万人でピークを迎える
2055	4人に1人が75歳以上となる
2056	生産年齢人口が4983万6000人となり、5000万人を割り込む
2059	5人に1人が80歳以上となる
2065	総人口が8807万7000人で、2・5人に1人が高齢者となる
2076	年間出生数が50万人を割り込む
2115	総人口が5055万5000人まで減る

(注:「未来の年表」について、参考図書Aより追記)

① 国立大も倒産?

18才の人口が減るので、国立大でも存続が難しくなるか?

② 出産可能な女性の数の減少

女性の過半数が50才以上へ。少子化で未来の母も減少。

③ 介護で離職の可能性も高まる。

介護サービス不足で父母が介護のため離職の可能性高まる。

④ ひとり暮らし社会 本格化

祖父が亡くなり祖母のひとり暮らし増加、未婚者増加も一因。

⑤ 輸血必要量不足

人口減少から輸血不足で、手術や医療に混乱が生じるかも。

⑥ 東京郊外にもゴーストタウン

住む人が激減し、店や会社が減り、誰もいない野が増える。

⑦ 古いインフラの維持更新

道路、橋、建物などの維持更新を人口減少の中どうするか

⑧ 誰も住まない土地

離れ島や地方で無人地域ができ、外国人が占拠しているかも。

やはり、小学生の僕が見ても、いいことが書かれていないことは分かります。明るくない未来だなと思います。18才の人口が減り大学も倒産する可能性があるなんて。高齢化が進み、人口が減少する社会で、様々な問題が走ってる、そんな中で僕らは成長していかないといけないのです。

人口減少社会になることで、青壮年不足がおこるとか、空き家が増えたとか、居住地域なのに誰も住まない土地が増えたとか、人が減ると何が起るとかを、色々考えみた方がいいことは分かりました。

日本の人口はどれだけ減るのだろう？参考資料2をみると、

① 100年後に半分以下(5060万人へ)

② でも、明治維新(1868年)の時よりは多く、

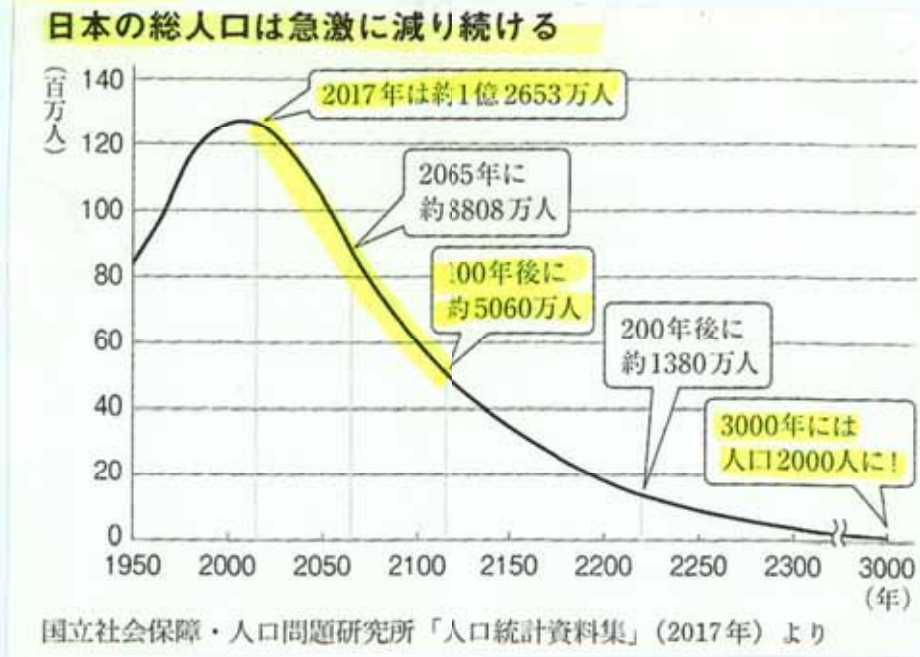
終戦(1945年)の時より少ない。

今、僕らの時代は、日本の歴史の中では、人口が非常に多い時期を生きている。

③ 人口ピラミッドの変化としては、高齢化が進みながら、人数の多い世代がだんだんといなくなり、少子化の影響で若い世代も減り、竹藪が小さく変わっていきます。

(参考資料2) 日本の人口推移 (過去・未来)

①(参考図書Aより)



②(参考図書Bより) 長期推移グラフ

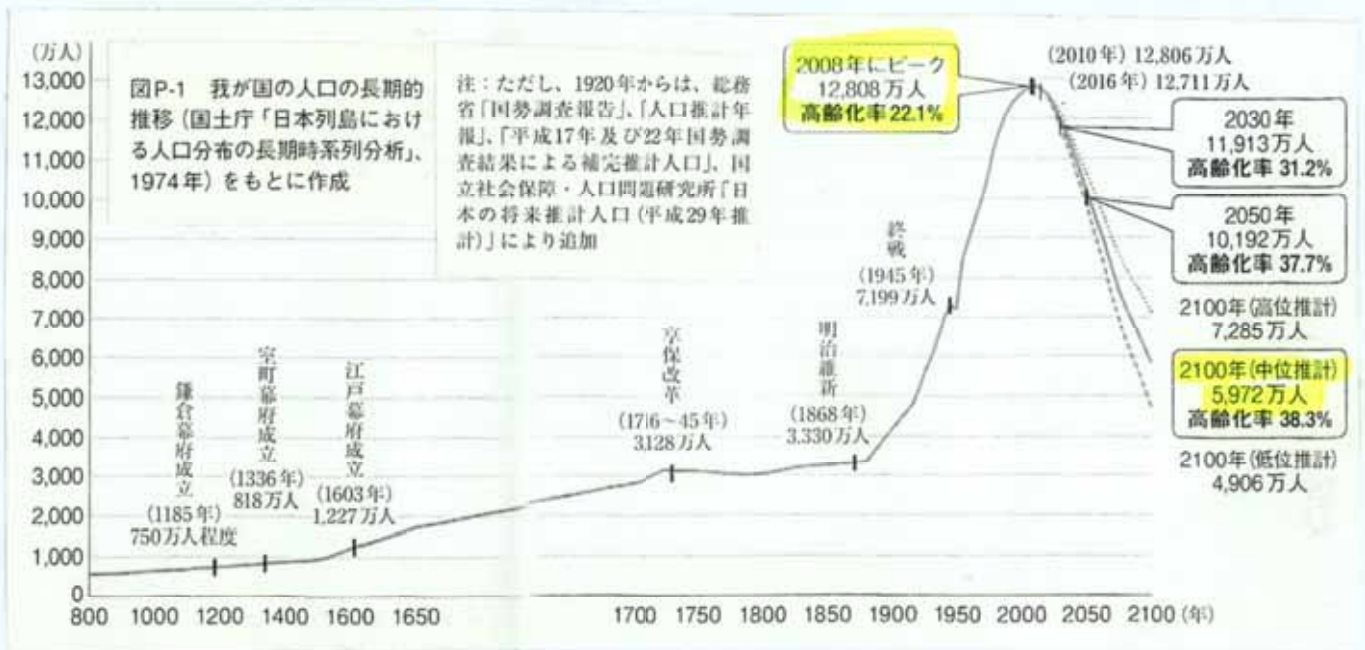
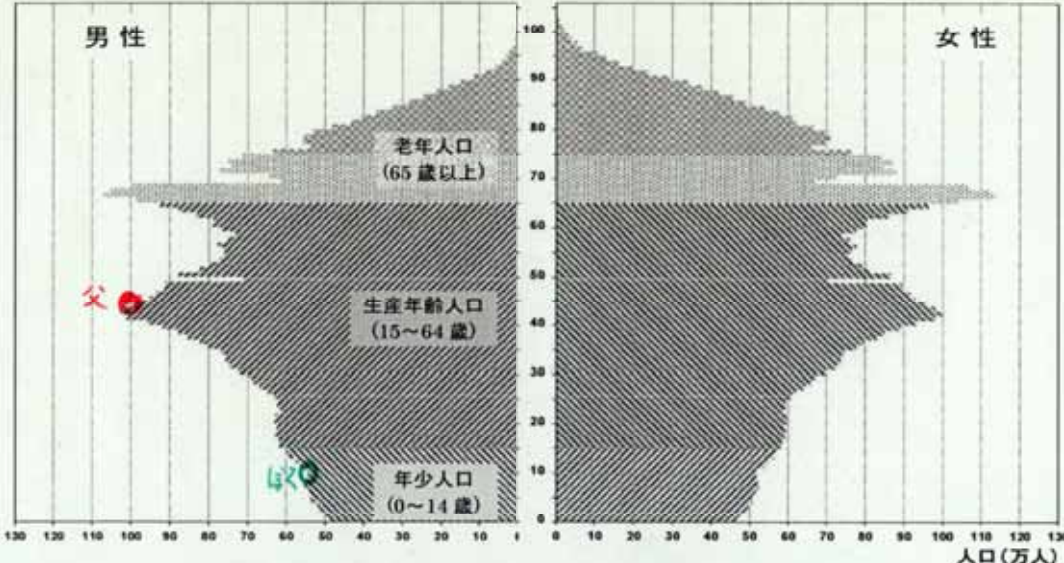
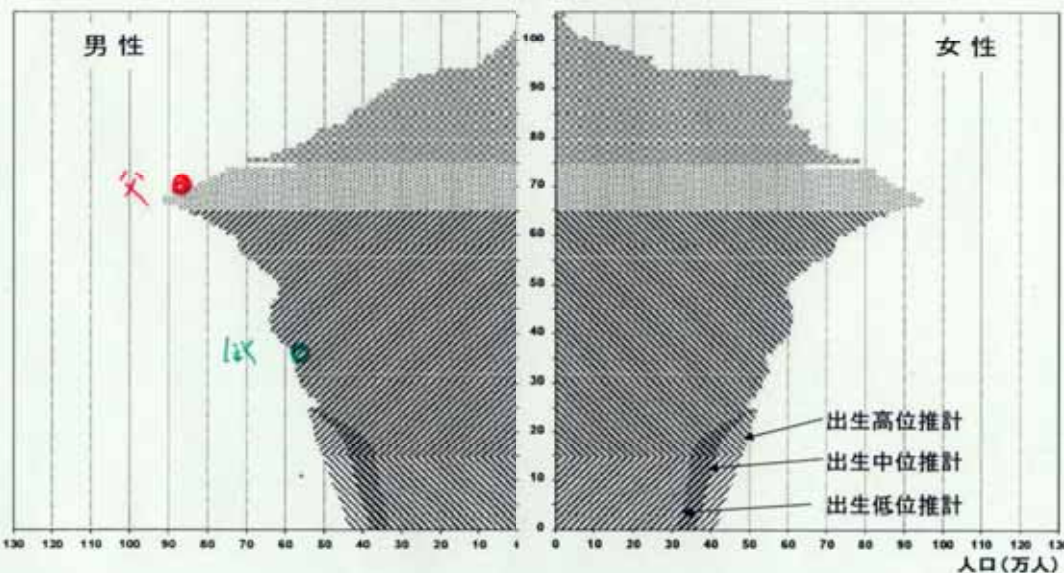


図1-5 人口ピラミッドの変化：出生3仮定（死亡中位）推計

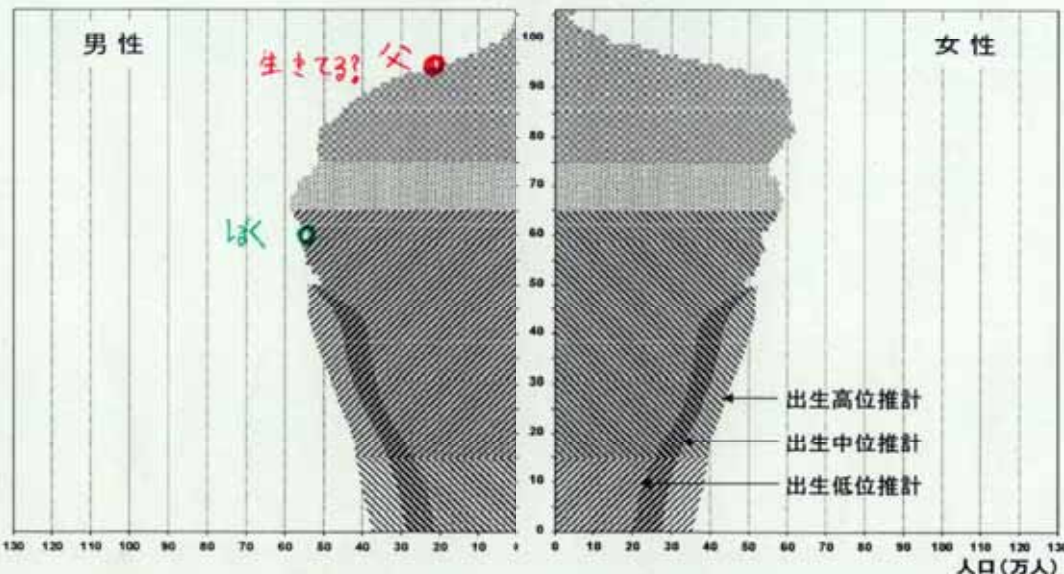
(1) 平成 27(2015)年



(2) 平成 52(2040)年



(3) 平成 77(2065)年



(3) 僕たち小学生に難しくても学ぶべきこと

未来の長い時間を見通ししおることや、人口減少社会で今後どのようなことが起こっていくのかを考えることは、僕たち小学生には難しいことなのだと思います。でも、長い先々のことを予測するのは、きっと、大人でも難しいのだと思います。なぜなら、未来で起こることは今起こる話ではなく、未だ来ない未来で起こって始めて分かるからです。

では、未来を調べないでいいか？というところ、そんなことはないのだと思います。僕たちの大切な未来をどのように生きるか、色々な夢を持ち成長していくことを考えるとき、将来どんなことが起こるのかを予想しないわけにはいかないのです。

前節の「未来の年表」では、明るくない未来が予測されていますが、「明るい未来」に変えていく、少しでも良い社会に変えていくことは、できることだと信じています。

参考図書をたよりに、問題の仕組みを調べてみようと思います。ただ、小学生、少なくとも僕には難しいので、調べる準備のために両親にアドバイスをもらいながら進めることにしました。

2. 準備、経済や社会の仕組みを学ぶ

2. 準備: 経済や社会の仕組みを学ぶ

ふとしたきっかけで出会った「未来の年表」に驚きました。

僕ら師の未来なのだからよく調べないといけない、そんな思いが高まり、今年の「調べる学習」の題材に選んだのです。けれども、小学生の僕にはまだ習っていないことも多く参考図書を読み進めることこそ楽ではなく、まず父に相談し、調べる準備をすることにしました。

「なるほど、人口減少社会は大きな問題だ。来年のことではないけど、明春が父さんの歳になる30年以上先とか、それよりも先まで見通した時、今の日本とはかなり様変わりするのだね」と父は参考図書に目を通しました。「これらの問題を考えるには経済や社会の仕組みについて知識があると分かりやすいから、少しだけ基礎知識について話をしなうか？」

(1) 経済の仕組みについて

父: 「経済」といってもピンとこないけどお小遣いをもらい、コンビニで買い物をすれば、もう経済に関わっていることは分かるかな？」

僕:「うん。」

父:「この例だと、明希の収入はお小遣いであり、その中でお菓子などコンビニの買い物に支出している。

でも、お小遣い(収入)はお父さんが明希に渡しているから、明希の収入はお父さんの支出でもある。

同様に、明希の支出は、コンビニの収入になる。」

僕:「あ、そうか、お金を介してつながっているのだね。みんながお金を使ってモノを買ったと、モノを作っている会社はお金を稼ぎ、そしてまたモノを作る。会社でモノを作るためには、その会社もお金を使って、材料を買わないといけない。経済ってお金の通流、みんながつながっていることだろうか？」

父:「その通り! その『モノを作る』と言ったところは、モノはサービスでもよい。そのモノやサービスを作ること(生産と呼ぶ)には、『材料』も必要だけど、誰が、何を使って生産するだろう？」

僕:「あ、人が働くのだな。そして工場では機械を使う。」

父:「そうだね。お父さんは会社からお給料をもらうのだけど、会社の生産に労働力を提供し(要するに働かせること)対価として収入を得る。この収入があって明希のお小遣い(お父さんの支出⇒明希の収入)入っつながっているのだよ。だから、経済をみるとき、労働、消費(上の例ではコンビニでの支出)設備投資(例えば工場での機械を買う、会社で使うシステム投資など)、生産量などの状況を知ることが、最初の一步。各要因が連動し循環する様子をつかむんだ。」

僕:「じゃあ、いっぱい働かせれば収入が増えるの?収入が増えれば支出も増やせるじゃない?それで、いっぱい働かしたらモノをいっぱい作れて、売れたら、またお金が手に入り、またいっぱい作り、売り、収入になる。良いことだらけ!」

父:「そうなるといいね(笑)。」

僕:「今年春のセミナー(註)でチーム対抗のビジネスゲームやったよ。会計士の先生に手伝ってもらいながら、利益が最大のチームが勝ち、10チーム中、2位だったかな?」

註)「ハロー!会計スプリングセミナー2017」2017年3月20日開催
日本公認会計士協会 東京会主催(おヶ谷にて)

先生たちは、利益を得る仕組みを、グループワークを通じ、
実際に計算して体感してほしいと言っていたよ」

父：「いい勉強をしたね。でも、会社の事業が全て上手くいく

わけではないことは、そのゲームで9位や10位だった

チームを思えば、少し分かるかな？日本全体、はたまた

世界全体で見ると、みんなが同時にハッピーになるとは

限らないんだ。でも今は、ここを限り下げより、先に、

税金や社会保障について考えてみよう」

僕：「あ、消費税？また上げて10%にするのかな？」

父：「かな？次の話は少子高齢化と大きく関係しているよ」

(2) 国の財政、税金・社会保障

父「日本の国の収入(=歳入)と支出(=歳出)の大きさを

聞いたことあるかい？」

僕「借金が1000兆円とか？」

父「借金は毎年の赤字の累積だね。参考資料30(財務省資料)

によると、1年間の支出はざっと96兆円、収入が60兆円、な

ので36兆円ぐらい借金が増えている」

僕:「大変なのだろうけど、大きすぎて分からないな。」

父:「財務省も考えていて『たとえ』の説明もつけている(参考

資料3②) 1ヶ月の給料 (=歳入のこと) が50万円の家庭

(=日本) が、毎月80万円の支出 (=歳出) をしていて、

毎月30万円借金が増えていて、借金残高は8400万円だ”

という。

僕:「それはダメだ、支出を削らないと借金が増え続ける!」

父:「その通りだ。でも支出の中身をみると、

①約50%が『年金、医療、介護、地方への仕送り』で、

②約25%が『ローン返済』、③残る25%が生活費だ。」

どれを削る? ②は出来ない。むしろ、日本の超低金利政策

で借入金利がかなり安くなっているのです。将来的には増え

る可能性が高い。①か③だけと、①は、高齢化と東京集中が

影響している。③はふつう生活費だとみればいい。」

僕:「そうか、祖父母のために、自分のお小遣いを減らすのが、自分の

お小遣いは減らしたくないから、祖父母にあけるお金を減らすのが『究極の選

択』みたいだなあ。」

父「でも選挙の時、明希にはまだ選挙権はなく、祖父母やお父さんには選挙がある。だから少子高齢化の進行で有権者にとめる高齢者(シルバー)の割合が増え、高齢者層の政治への影響力増大が指摘される(シルバー民主主義)。選挙に勝ちたいから選挙権のある層にうける政策を出そうとせざるを得なくなるよね、『消費増税、先送り!』みたいだね。」

僕「そうか、僕らの世代にしてみると、選択権はあまりないのか。そうすると、どうしても借金を将来世代へ先延ばしにしやすい。でも将来の働かぬ人 = 僕らの世代は、少子化だから一世代の人数が少ないはずで、みんなで働いても十分な税金を、払いたくても払えないんじゃないだろうか?」

父「そうかもしれないね。でも今でも1000兆円と言われる大きな借金があるのは、1000兆円の貸し手がいるから借入が出来るはずだ。さっき話をした、お金でみんながつつながっている、のと同じ。日本の個人資産は大きく1800兆円とも言われる^(注2)。お父さんがお母さんのヘソクリで助けられていると、例えられることもある。」

注2) 「家計金融資産、最高更新16年末1800兆円」

出所) 日本経済新聞(2017年3月17日)

僕:「ああ。でも、お父さんはいつかお母さんにお金を返さないと、お母さんも年老いてお金が必争になるよ。」

父:「その通りだ。だから、どうしたものかと、みんなで悩んでいるのだよ。今借りているお金をどうするかについても

考えないといけないのだけど、先に、毎年の借入額の増加

＝主に年金、医療、介護、などの費用(社会保障費用)の抑制

対策がないと、財政が行き詰まって、公共サービス全体が

機能しなくなる可能性もあるんだ。アメリカでも債務上限

問題があり、オバマ元大統領領のときにも、お金が無くなった

ので、借金再開まで、お役所がストップしたことがある。

まだ何年前だよ。トランプ大統領もそうならいように

必死だよ。バク州では、ギリシャ問題があったよ。」

僕:税金は大切なんだよ。小学のとき豊島区民センターの

イベント^(注3)で映画みたよ。学校、警察、救急車、道路の補

修などがストップして街が混乱していた。そのあと、ま

先生のパフォーマンスが面白かったのを覚えているよ。」

注3)「楽しく税を考えよう!&らんま先生のECO実験パフォーマンス」

豊島法人会主催 2014年11月29日

父:「より、必要な公共サービスへの支出は削減していくけど、それも見直していく必要がある。残念ながら、社会保障もね。既に年金支給は65歳へと引き上げられているが、それを、まだまだ先へ伸ばすような意見もある。例えば75歳とか。」

僕:「え?、じゃあ、お父さんは75歳まで働くの?」

父:「普通の会社員だと考えられないよね。だから、無理のある話。つまり年金って若い時に老後のための貯金という性格があるのに、いつまでも返してもらえないんじゃない? 困ったもんだろ?。貯金したのに、お金がないので返せませんだぞ! 普通、会社ではこういうのを破たんや倒産と呼ぶんだよ。」

僕:「(参考資料1)で『2050年に社会保障制度の破たん懸念が強まる』とあったよ。ちょうど、こういうことかな?」

父:「そうだろう。父さんは団塊ジュニア世代だから、今年の朝への学習のテーマは、明希の問題でもあるが、父さんの問題としても無視できない話だなと思って、こうして付き合っている。」

僕:「どう支出減らせるかは削減はいいんだけど、まだ考えやすいけど、歳入が増えるのも良いわけで、そちらも考えてほしい!」

(参考資料3) 国の財政の状況について①

「日本の財政関係資料(財務省、平成27年9月)」より

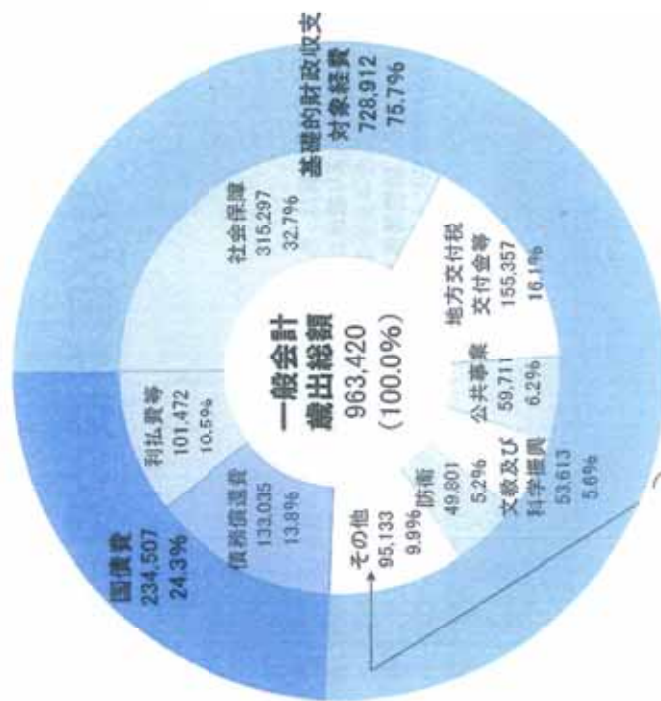
1. 平成27年度一般会計予算

(1) 歳出内訳

国の一般会計歳出では、社会保障関係費や国債償還が年々増加している一方、その他の政策的経費は経費(公共事業、教育、防衛等)の割合が年々縮小しています。
国債の元利払いに充てられる費用(国債費)と社会保障関係費と地方交付税交付金等で歳出全体の7割以上を占めています。

予算(平成27年度)

(単位:億円)



高科学技術 10,417 (1.1%)
中小企業支援 1,656 (0.2%)
エネルギー対策 0,905 (0.1%)
農林 3,932 (0.4%)
国土強靭化 5,064 (0.5%)
その他の政策経費 61,279 (6.4%)
予備費 3,500 (0.4%)

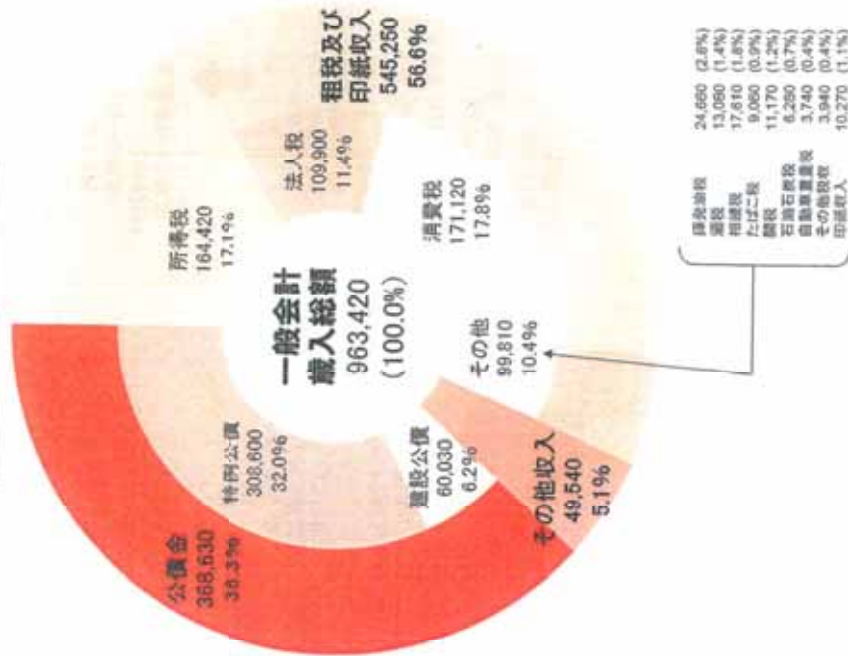
※「基礎的財政収支対象経費」とは、歳出のうち国債費を除いた経費のこと。当年度の政策的経費を含まず指標。

(2) 歳入内訳

平成27年度一般会計予算における歳入のうち国税は約6割を占めています。また、その年の歳入はその年の歳入や繰上入金で補うべきですが、平成27年度予算では歳入全体の約1割程度しか補っていません。この結果、残りの約4割を公債で補う必要に迫られており、前年度に比べて増えています。

予算(平成27年度)

(単位:億円)

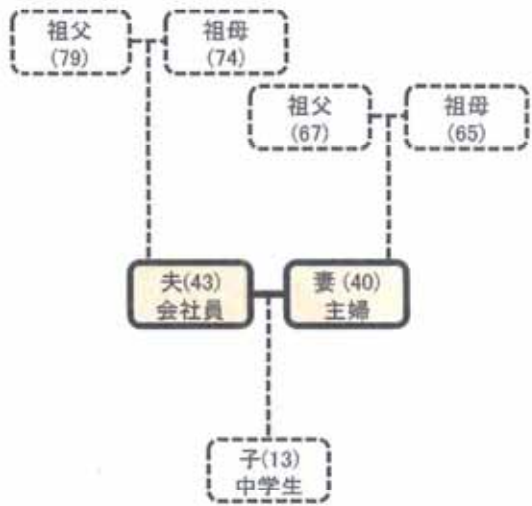


課税増徴 24,660 (2.6%)
酒税 13,080 (1.4%)
相続税 17,810 (1.8%)
たばこ税 9,080 (0.9%)
関税 11,170 (1.2%)
石炭石炭税 6,290 (0.7%)
自動車重量税 3,740 (0.4%)
その他の歳入 3,940 (0.4%)
印紙収入 10,270 (1.1%)

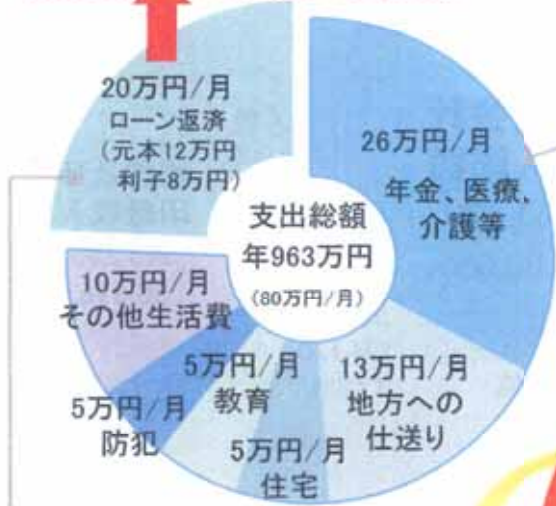
コラム 我が国財政を家計にたとえたら

一般会計歳入・歳出総額が96.3兆円の我が国財政を年収963万円の家計にたとえると、月収50万円に対して、毎月新たに30万円以上の新規借入れを行っており、ローン残高は8,400万円に達しています。

(日本の一般的な家庭像)
・ 親世代が後期高齢者へ
(→今後更に医療・介護費用が増加)
・ 少子化で子どもは平均1.7人

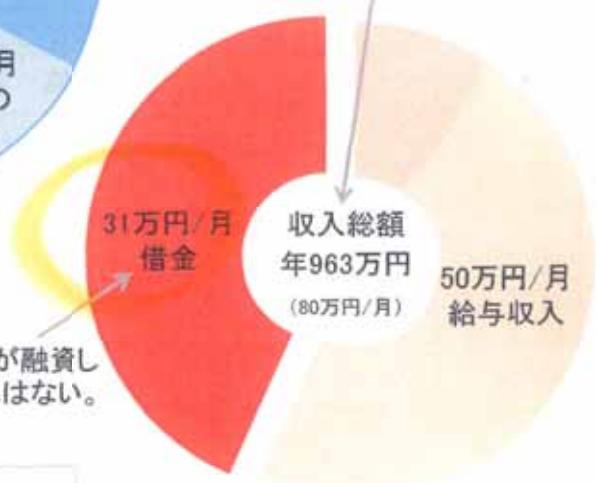


ローン残高: 8,367万円
うち住宅ローン残高: 2,656万円
生活費ローン残高: 5,711万円



年金・医療・介護費用は親世代の高齢化に伴い毎年10万円程度増加中。

支出と収入のアンバランスが著しい。



今は超低金利だが、金利が上昇すれば利払費は急増。

現実には銀行が融資してくれる水準にはない。

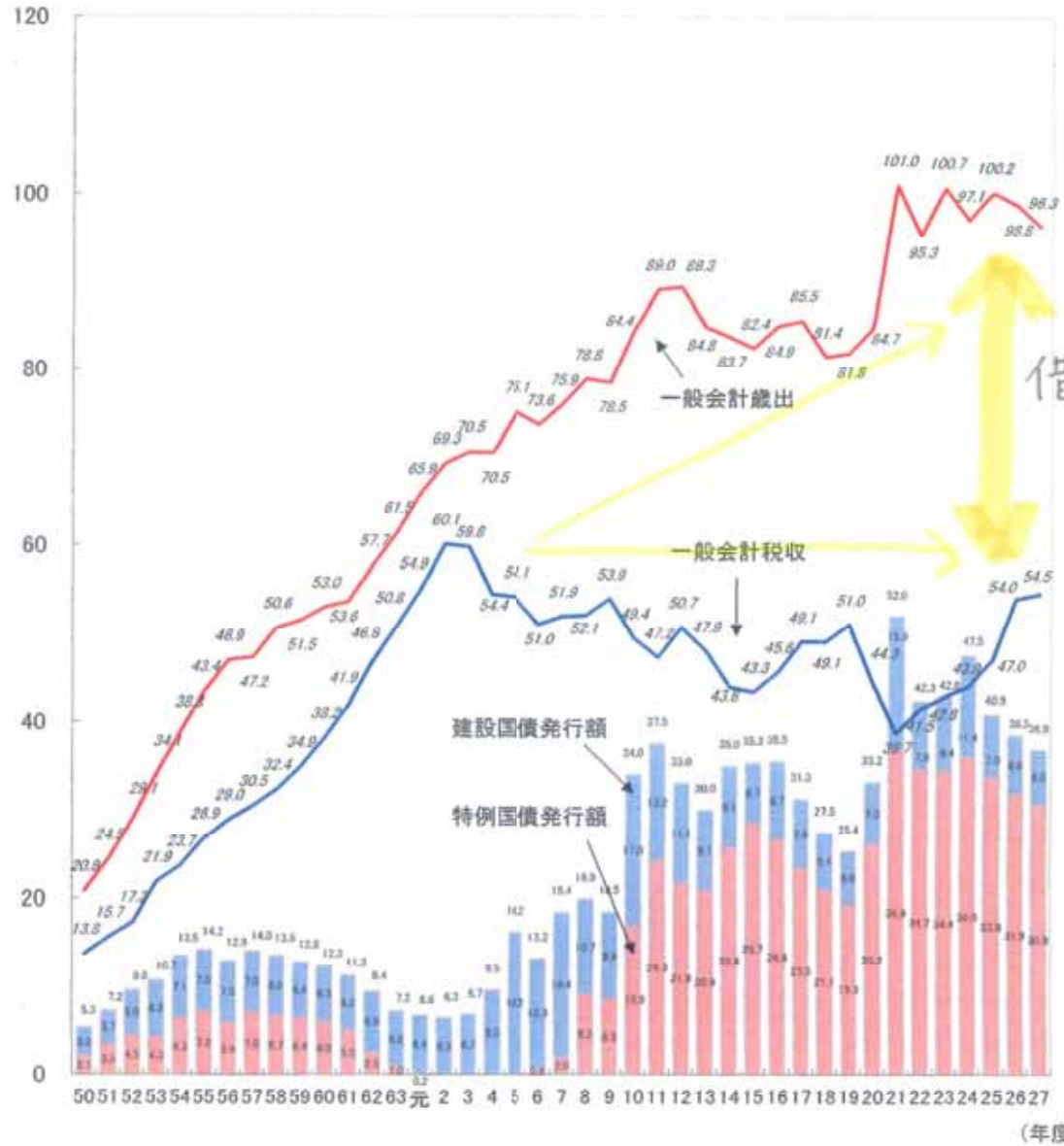
(参考: 日本の平均的な世帯の家計)
・ 平均年収 512万円
・ 借入金 439万円(40代が高い)
・ 貯蓄 1,047万円(高齢者世帯に偏在)

(参考資料3)③

2. 一般会計における歳出・歳入の状況

我が国財政は歳出が歳入(税収)を上回る状況が続いています。特に、平成20年度以降、景気悪化に伴う税収の減少等により歳出と歳入の差額が拡大し、その差は借金である国債(建設国債・特例国債)の発行によって賄われています。

(兆円)



(注1)平成26年度までは決算、平成27年度は予算による。
 (注2)公債発行額は、平成2年度は湾岸地域における平和回復活動を支援する財源を調達するための臨時特別公債、平成6~8年度は消費税率3%から5%への引上げに先行して行った減税による租税収入の減少を補うための減税特別公債、平成23年度は東日本大震災からの復興のために実施する施策の財源を調達するための復興債、平成24年度、25年度は基礎年金国庫負担2分の1を実現する財源を調達するための年金特別公債を除いている。

(3) 日本の景気を良くするには?

僕:「ここまで話だと、たくさん収入を得て、たくさん使えば日本全体でよい経済になるということかな?、つまり景気が良いということになるかな?」

父:「そうだね。たくさん収入を得れば、所得税を払うことになるし、会社ではあれば法人税を払う。お金を使えば、消費税を払うことになるので、国の歳入が増えることにもなる。」

僕:「だから、たくさん収入を得るにはどうしたらいいかを考えればいいのかな。たくさん働けばいいんだね?」

父:「いちおう、そういうことだけど、働くにも、ひとりひとりが働く時間には限度がある。だから社会みんなで働くことができると、国全体として収入が増えることになる。でも人口減少社会だから、働く人の数は減っていくから、国全体の収入も、将来は減っていくことになるだろうね。」

僕:「じゃあ、1人が2人分働くことができれば、いいということかな?、例えば、自分のコピーロボを作るとか。あと、働ける人の数をどうにかして増やせないかな?」

父:「そうだね。技術進化、生産性向上、出生率の上昇、外国人

労働者や移民の受け入れ、あとウーマンリクスと言われる、
女性活やくの場を拡大していくことなどが関係するわ。」

僕:「コンビニの店員さんが外人さんなのをよく見かける。」

父:「そうだね、今、東京だけで、在留外国人数が50万人らし
く、東京以外でも多くの外国人の数が増えている。中国、韓
国、フィリピンがトップなのよ^(注4)。この他、旅行で
日本にたくさんの方が来て買い物してくるのも、輸出
みたいなものだから、日本にはいいことだと思う。」

僕:「生産性を高めるために、ロボットや人工知能が進めば、

いいのだね。身近なことだと、回転寿司のスシローに行くと、
パッドで注文したら自動的におすしが出てくる。

人手を少なく機械で代替して効率性を上げている。Yフ
トバンクに行くと、ペッパー君がいる。あ、我が家にもRobi
がいる。人手不足を補う仕組みなのかな。」

父:「そうだね、製造業の工場では、産業ロボットが配備されて、
さらに効率化が進んでいる。」

注4) 参考図書C p.159より(データ元:法務省入国管理局)

僕:「あれ、でも機械化が進むと、機械だけでよくなるのかな？」

そうすると、元々、みんなでたくさん働いて景気良くなれば

と考えていたのには、人を減らして機械が増えたら、効率よく

会社がもうけることが出来ても、働く人への給料合計が

減ることにならないかな？」

父:「そうだね。だから、ロボットや機械を作るか、それを管理

する人にならないと、ロボットや機械と同じことをやるの

だったら、残念ながら、職を失うことになるね。」

僕:「あとは、ロボットとか機械とかがマネをできないような

仕事であれば、いいということかな？」

父:「そうだね。この辺りは、いろいろと議論されていて、明確

な答えはまだ見えていないところも多い。例えば、旅客機

も、今の技術だと、完全なオートパイロットも可能なようだ

が、パイロットのいない飛行機に乗るのはこわくない

か？でも航空会社は人件費削減で都合よいみたい。その分、

航空運賃も安くなるとみたいだが、人から仕事を奪うのか、

人手不足だからロボットたちに身かられるのか。」

僕：「人と機械、うまくバランスしていく必要があるよね」

父：「人口減少社会であっても、宅急便のようなサービスは便利だし、あまり減らないかもしれない。でも人口減少となったら、体的にもつい長距離

運転トラックの運転手さんも減り、モノの流れがうまくいかないかもしれない。

そんなとき、もし、完全自動運転のトラックがあれば、話がかわる。例えば、

自動運転トラックだけが走るレーンのある高速道路系を作れば、高速から

降りてきたトラックの荷物を、その地区担当の小型トラックに分けて

配達するようにすると、運転手さんも深夜に走ることなく、一方では元

を中心に配達することができる。人手不足になったときに、技術が助けられ

れる事例になるといいよね。この他に地域のコミュニティバス

を自動運転バスにできないかなど実験されている」

僕：「あまりの仕事の多さに怒って、宅配物を投げつけていた人

がいたのをニュースで見た。いけないことだけど、でもあの

人も相当に疲れていたのかな。僕らも将来働くとき人手不

足が見込まれるから、技術を上手に活用しないといけない。

活用できれば、道も開けるだろうな。覚えておくよ」

父：「最後に、重要な点にふれておこう。ここまでは、収入を高めるために、人口が減っても生産効率を上げればいいという仮定で話をしてきたけど、作ったものを売ってくれるかどうかは、最後は買う人が決める、という重要な点がある。

例えば、人口が減少しても、日本の製品はやはり世界で人気で売れ続けるとしよう。人手不足の中、ロボットや人工知能を活用して、さらに増産できて輸出が増えれば、もっと収入が増えるはずだ。だけど、最近のトランプ大統領は中国などの貿易相手国（＝米国が貿易赤字の国）に対して収支改善を狙い圧力をかけている。人口が減る日本の国内では、売れる数も減るのだろうが、人口が増える世界には、輸出できる余地があるかもしれない。でも、輸出だけでは、相手国とケンカになってしまう。人口が減っていくからこそ日本の得意不得意を見定めて、得意なモノは輸出して、そうでなければ、輸入を増やすといった効率化が大切になってくると思うねえ。貿易相手国とは仲良しにならないといけない。」

僕：「そうだね。」

(4) 人口減少を食い止めるには?

僕:「人口減少を抑えるには、少子化を改善しないとね。出生率を上げるには・・・」

父:「そうだね。まずは結婚しないといけなけれど、子供を増やしていくことが必要だ。でも子育てとお仕事を両立していきって、思った以上に大変だよ。」

僕:「ところで、さっきの『ウーマノミクス』って何？」

父:「ウーマン (女性) とエコノミクス (経済) の造語だよ。」

ふつうの会社だと、役員さんなどは男の方が多いんだけど、女性が“えらい人”になってもいいわけで、むしろその方が新しい風を作り、会社業績が上がるのではという考えがある。日本では、子育て後に、また会社に就職したいと思っても、うまくできない場合が多いと言われていたけど、人口減少社会の中で、うまくつなげていくといいよね。出産や子育てで会社を離れると、復帰するときには時代が変わってしま！復帰できないのではなどの不安も大きく、仕事と育児の両立をしたい女性の悩みは大きい。特に人口減少社会の中で、こうした女性への協力が少子化対策となるよね。」

僕:「でも、子供を産んで人口を増やしていくのは、ものすごく時間がかかるね。」

そうすると、外国人の方々に日本で働いてもらう、日本に移住してもらうこと

を進めた方が、人口減少を食い止めるために、早く効果がある

かもね。」

父:「そうだね。(参考資料4)では、日本の人口が今後、3つのシナリオ

ごとに、どのように異なるか、示しているよ。」

① 移民なしで、出生率も現状のままの場合

② 移民なしで、出生率が2.07の場合

③ 4年移民を毎年20万人受け入れ、出生率も上昇の場合

ここまでの話では、人口減少社会で、100年後には人口半減となる

シナリオだったけど、出生率の改善と、移民の受け入れ拡大があれば、

人口減少スピードはゆくりとなり、うまくいけば、将来再度人口増加

もあり得ることを示している。」

僕:「なかなか増加するのは難しいかもしれないけど、でも、未来に、少し

は明るさが出てくるな。でも、外国人が日本で増えたとき僕は

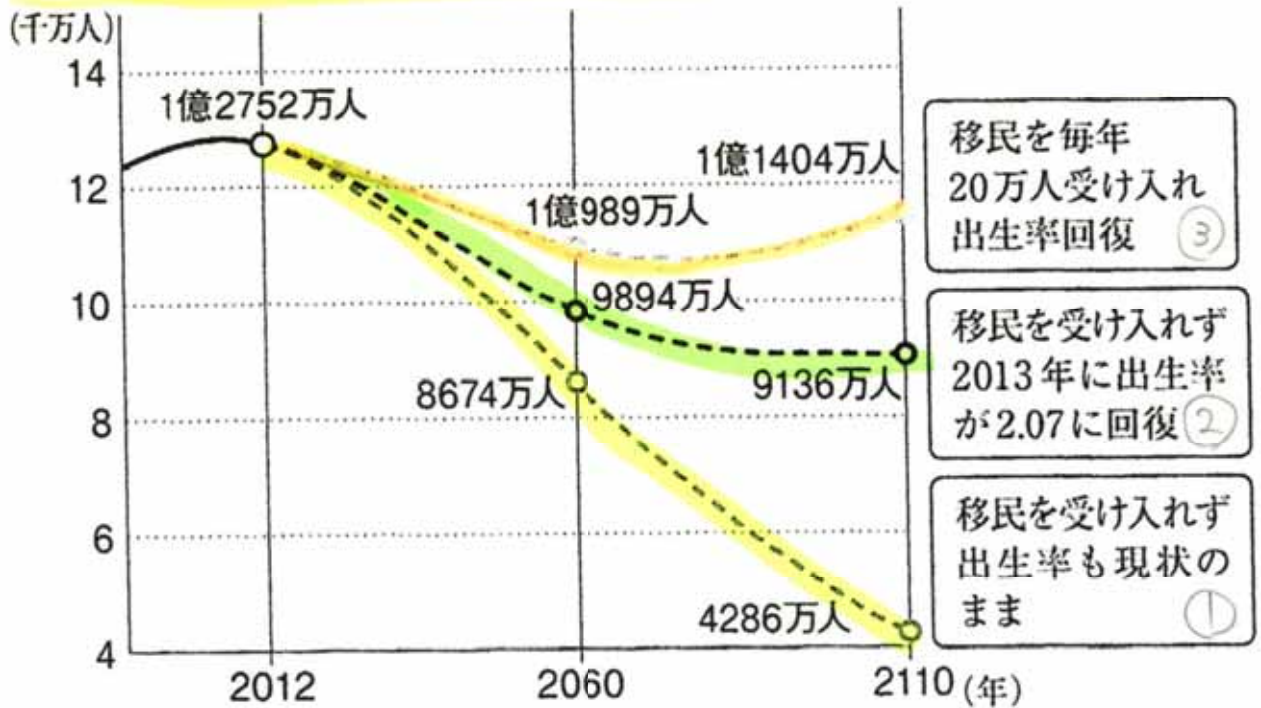
何語を話すことになるのだろう？」

父:「そうだね、だから英語以外の外国語も学ばないとね。」

僕:「それは大変だね。」

(参考資料4)

移民を受け入れた場合、人口はこう変わる



内閣府「目指すべき日本の未来の姿について」より

(参考図書Aより)

(5) 外国人労働者・移民と、国際的な見方

父: 「外国人労働者と移民に関しては、アメリカや英国、欧州でも大きな論点なんだ。一つは、トランプ大統領のように、また英国EU離脱問題のように、移民がその国のイ埒(雇用)を奪うという議論。もう一つは、移民や外国人労働者がいつでも国外へ行けるわけではない点。」

僕: 「一つ目はどういうこと？」

父: 「母国より高い給料を目指して異国へ行き、その国のお給料より少し低い給料で働きます」と交渉したとしよう。会社は安い方がいいのでお仕事を、国内の人よりも外国人労働者や移民にやってもらうことになる。外国人が国内の仕事を奪ったように見えるね。」

僕: 「移民反対! と反えるのか、皆さまの雇用が大切です! というメッセージは選挙では材料になるのかな。」

父: 「海外では移民に関する経済効果の研究もあるようだが今のところ、様々な見解を集約すると、移民を受け入れた時、それによる悪い経済効果は報告されていないようなんだ。」

僕: 「トランプ大統領の主張は、理由が弱いということ？」

父:「そうかも知れぬ。でも政治の世界には、メッセージとして別の意味もあるから今は深入りしない。それよりも重要なのは、日本にとっては、人口減少社会なので、海外のような『来てくれるな!』ではなく、むしろ『日本に来てください、お願いします』という真逆の状況を考えないといけない。」

僕:「来てくれないと人口減少が止まらない。」

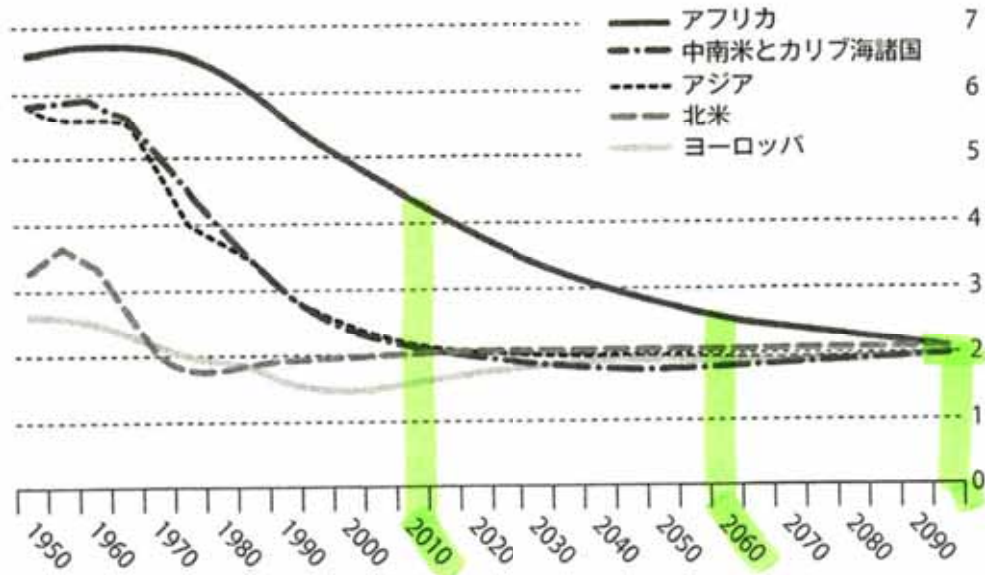
父:「そこで2点目の話へ。来てほしくても来ない可能性だ。」

高齢化問題は先進国や中国でも同じ。参考資料を見れば、多くの国・地域での出生率が2に近く、将来は、アフリカも含めて2に収束する。つまり世界人口の増加はどこかで止まるだから、日本の人口減少を移民に頼るにしても限度があり、例えは、中国やアジアが移民を必要とする時とそう遠くはない。

そうすると、『移民』の奪い合いになるので、外国人労働者や移民が『来たくなる日』を作らないといけないね。よき給料、日本で暮らすことの良さなど、もっと、アピールできる点を増やさないといけない。結局は、人口減少社会では、日本人とそれ以外といった古い文化から、もっと国際色豊かな社会になる必要があると思われ。」

(参考資料5) 世界の合計特殊出生率

合計特殊出生率



出典：国際連合

(参考図書G5)

3. 日本の未来の関連図書を読む

3. 日本の未来の関連図書を読む

前章までに、参考図書の内容にかかわらず、調べて考える学習の準備をしました。そこで、ここからは、人口減少社会や未来に関するいくつかの図書を読み、その要約を書くことで、僕たち如未来の参考にしていければと思います。

(1) 「未来の年表」(参考図書A)

筆者は、人口減少が始めたこの日本に「静かな有事」があり、暮らしが劣化していくことを心配しています。人口減少は日々の生活の中では分かりにくいものであっても、長い時間で見ると確実に起るため、静かだけれど、国としては「有事」と整理しているのです。本書の中では、そのことを様々なデータを確認しながら、驚くべき「未来の年表」を通じて、僕らに危険信号を発しています。

筆者は問題点を①出生数の減少、②高齢者の増加、③労働人口の減少、④これらが組み合えて起る人口減少と指摘します。日々の生活には多くの働く人が必要なのに、少子高齢化と人口減少が進むと、未来において日本が消滅しかねない、そんな

に未来までいかななくても、時に混じりが生じかねないからです。だから、日本を作り替えていく必要があるのではないかと主張しています。これまでの日本の繁栄をただ延長する拡大路線はやめて、人口減少はある跡跡避けられないから、あえて小さな国となるような戦略をとるべきだと言います。人が減るのだから、大きな経済規模を維持することは難しいので、コンパクトで効率的な国へ作り替えてはどうかということのようです。1億人を超える

国家は世界の中ではひとにぎりでありますが、日本よりも小さな国でも日本より豊かな国もあります。こうした考えの下で

「父方せん」も示されていますが、何より本書の最後に「未来を担う君たちへ」と僕らの世代に向けた語りかけがあります。今、僕らの父母が現役世代ですが、人口減少日本の中でまずは現役世代が将来世代の負担を少しでも軽くなるよう努力しないとい

けないと言います。でも、国は何世代にもわたり受け継がれてい

くものだから、僕らの世代も課題を知り、どうすればいいか、自

分たちの問題として考えてほしいとも言います。読んでみて、内容をちゃんと理解できたわけではありませんが、問題は大きく、僕ら

が成長していく今後の参考図書の一つだと感じました。

(2) 「縮小ニッポン」の衝撃 (参考図書B)

本書は、NHKスペシャルの番組が元となり、人口減少社会について「地方自治体」という切り口から編集しています。過去に

破たんし再生団体となっている北海道夕張市の苦しみの話、首

都圏の市町村のなかで最も多く人口が減少した神奈川県横須賀

市の言語などにもおよびますが、向より、僕らの豊島区の話が

紹介されています。2014年5月に発表された「消滅可能性都市」の

リストの中に、豊島区があげられたのです！

東京は今も人口増加していますが、2025年をピークに徐々に

に減少し高齢化も進んでいくようです(参考資料6)。高野区長

は緊急対策チームを立ち上げ、様々な調査を行いました。若者の流入

で人口は増え続けているものの、今後の流入が減少すること、単身

高齢化が進むこと、また出生率が2区区内で最下位になること

(2015年時点での出生率=1.01)など課題があります。

人口減少が続くと将来は区の財政も苦しくなるかもしれません。

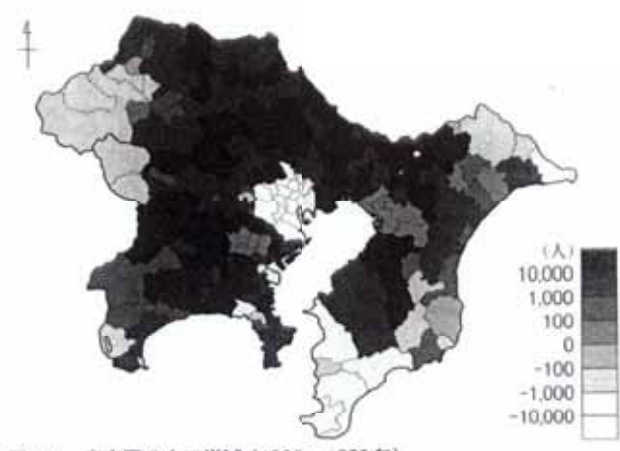
僕は、豊島区生まれの豊島区育ちです。僕が(僕らが)どう成

長すれば、豊島区に貢献できるかを、日々真から身近な問題と

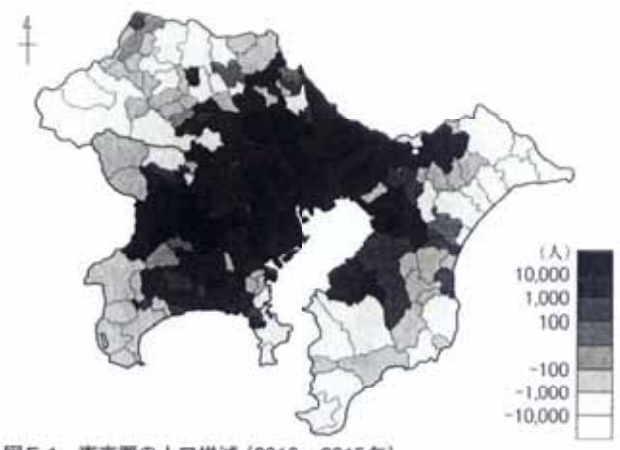
して考えていると思いました。

(参考資料6) 東京の人口増減関連データ (参考図書より)

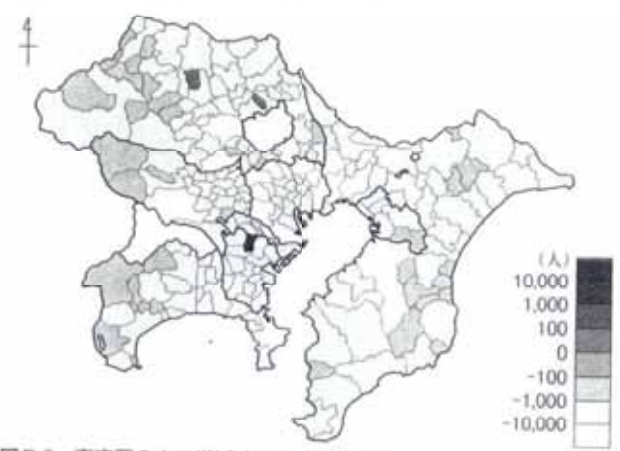
① 東京圏の人口増減



図E-2 東京圏の人口増減 (1985～1990年)
昭和末期から平成にかけて東京圏の大部分では大幅な人口流入が続いた



図E-1 東京圏の人口増減 (2010～2015年)
東京都心では人口増加が続くも、郊外では人口減少が広がっている



図E-3 東京圏の人口増減 (2035～2040年)
東京圏のはば全域が人口減少に。現在も人口流入が続く東京都の中心部ですら減少に転じていることがわかる

(参考資料6) ② 東京都の人口ピラミッド
(参考図書Bより)

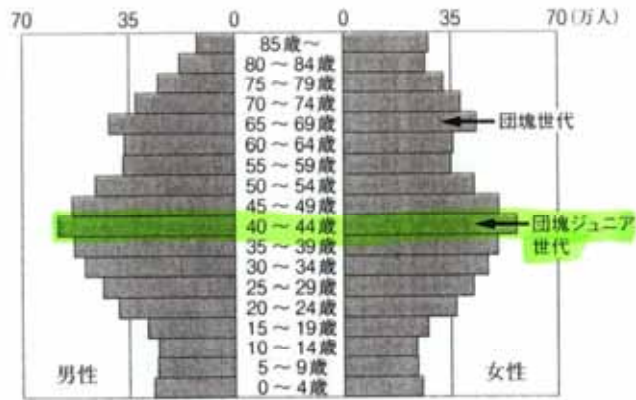


図1-5 東京都の人口ピラミッド (2015年)
出典：国勢調査 (総務省) をもとに東京都が作成

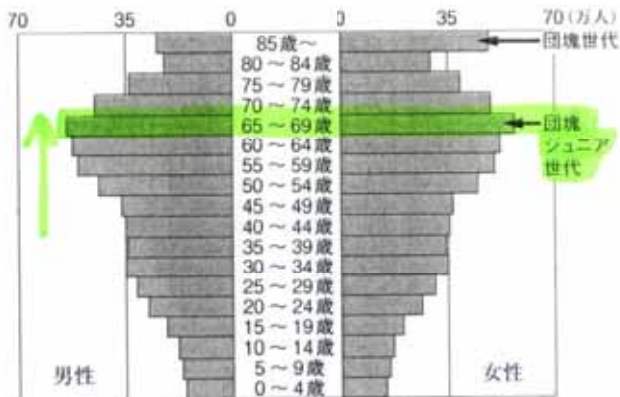


図1-6 東京都の人口ピラミッド (2040年)
出典：国勢調査 (総務省) をもとにした東京都政策企画局による推計

(参考図書6) ③ 豊島区の将来予測
(参考図書Bより)

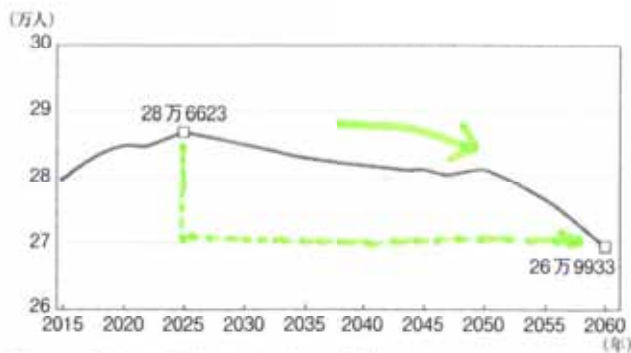


図1-7 豊島区が予測した区の人口の推移

(3) 「限界国家」(参考図書C)

本書は、人口減少社会のなかで、移民の受け入れが必要である
ことを強調しています。山村地域や離島などで、過疎や高齢化が
進み、経済面でも社会面でも共同生活が難しくなり存続の危機
にある村やまちを指して「限界集落」と呼ぶそうです。本のタイトル
は、この限界集落の様子が日本全国に生じて「限界国家」と
なる危機を示しています。その危険をこけるために、日本の最大
の課題が人口問題だという共通の認識ができあがっているの
で、移民の議論をもっと積極的にすべきだと主張しています。人口
減少により社会を支えることが難しくなっているから、移
民に関してこのまま消極的である理由はないとの考えです。

面白いデータが示されています。今、日本は移民政策をとって
いませんが、定住外国人の数は238万人(2016年12月末)と過
去最高となりました。またOECDの国際移住データベースでは、
2014年の1年に34万人の移民流入で世界5位にランクされ、
実はすでに立派な移民大国だと、筆者は言います。人口減少日本
の選ぶ道の一つとして移民政策は、あっていいのではないかと
思いました。外国人の方々が日本に住みたいと思ってもらえる

ように、様々な努力を日本がやっていく必要がありそうです。

僕らはこうした道考えたとき、どういう準備が必要でしょうか？ まず、外国の人々とのコミュニケーションをとっていくことになるので、外国語をしっかりと学ばなければいけないです。僕らは、小学校で英語を少し学びはじめましたが、中国の人であれば中国語、その他の国の方々なら、その国の言葉が必要かもしれません。また、日本の文化だけでなく、外国の文化も受け入れていくことにもなると思います。だから、僕らはもっと異文化を知っていかないといけないと思いました。こうした世界とのつながりを深めることが、人口減少日本の明るくない未来を、明るい未来へ少しずつ変えていく、僕らができる最初の一歩のような気がしました。

(4) その他の図書

上記の他に、関連する本はないかと父の本棚をながめていると、「2050年の世界」(参考図書G)を見つけました。イギリスの有名な経済誌「エコノミスト」編集者が出した本の日本語版です。環境問題や文化、科学やインターネットなど様々なテーマの章が続きます。その本の第一章がまさに人口問題で、「日本は世界史上最も高齢化が進んだ社会になる」と書いてありました。第10章では高齢化による国家財政の悪化について書かれており、今の日本の問題は、世界でも同じなやみとなっているのだなと思いました。社会保障費の増大も同じでした。改善のためには、制度の改革、医療での市場経済導入、官民連携による効率性の向上があげられていました。

この他に、未来の科学技術を予測する「ネクストワールド」(参考図書F)がありました。生命、宇宙、人工知能などい話がひろがっていました。NHKスペシャルの番組が元になった本ですが、その中では2045年にはコンピューターが人間の能力を超えるとあり、人口減少日本でこうした技術が上手に活かされるといいなあと思いました。

(5) 大人になったらどんな仕事に就こうか？

ここまででは人口減少社会の問題や、それに対してどうしていいか？

という図書の言話が中心でした。でも、未来を調べる上では、僕らが大人になったときどんな仕事をするかも大切な課題だと思います。仕事をして給料を手にする事で、税金を払う事ができれば、少しは社会に貢献できることになります。大きく変わっていく社会を知りながら、その中で、僕ら自身は何をやっていけばいいのか。各人の夢や目標に向かって、どう成長していくのが重要だと思います。

「新・13歳のハローワーク」(参考図書D)という本を、以前母に買ってもらいました。今まで少ししかみていませんでしたが、どんな仕事があるかを言っている今、思いのほか参考になりました。著者は村上龍さん。内容は、学校の科目を入口に多くの仕事を紹介します。国語が好きだったら、理科が好きだったら、体育が好きだったら、といったように全部で12章あります。

僕は、算数が好きなので、「数学」の章をみると、金融機関や、機械設計、建築家の紹介がありました。また、社会も好きなので、「社会」の章もみてみると、ジャーナリスト、新聞記者、行政書士、

弁理士などの紹介がありました。それぞれの仕事の内容で、分かっていないことは多いですが、それでも思っていたよりほとくさんの種類の仕事があることを知りました。

以下は、筆者のメッセージで、心に残ったところの引用です。

「子どもはいつか大人になり、仕事をしないとイケないのです。

仕事は、わたしたちに、生活のためのお金と、生きる上で必要な

充実感を与えてくれます。お金と充実感、それはひょっとしたら、

この世の中で最も大事なことになるかも知れません。子どもが

いつかは大人になり、何らかの**かた**で生活の糧(かて)を得なければ

ならないとしたら、できれば嫌いなことをいよいよながら

やるよりも、好きで好きでしようがないことをやる方がいいに

決まっています。」「この世の中には2種類の人間・大人しかいな

いと思います。それは『偉い人と普通の人』ではないし、『金持

ちと貧乏人』でもなく、『悪い人と良い人』でもなく『利口な人

とバカな人』でもありません。2種類の人間・大人とは、自分の

好きな仕事、自分に向いている仕事で生活の糧を得ている人と

そうではない人のことです。そして、自分は何が好きか、自分の

適性は何か、自分の才能に向いているか、そういうことを

考えるための重要な武器が好奇心です。」「自分に向けた仕事は決してつらいものではありませんし、どんな仕事も、それが自分に向けたものであれば、案外面白いのです。」

こんな話を父としていると 誰が日本の労働力を支えるのか?」(参考図書E)という本をみせてくれました。人口減少、労働力不足をふまえた内容は同じです。だけど、他の図書では人工知能やロボットで仕事を代替する点を高くは評価していませんが、本書は外国人労働者や移民も大切だけど、外国人が「日本で働きながらない(長時間労働、給料が安い、住みにくい)」ために、むしろ、人工知能やロボットで仕事を代替する可能性を評価し、技術と人間が共生していく姿を予測しています。最後に601の職業の人工知能や技術による代替可能性確率を、機械学習モデルで試算しています(参考資料7)。学校の先生や研究者、医者、芸術家、経営者など、人の感性や人の創造性が中心となる仕事の代替確率は低く、事務的な仕事や製造工程の仕事などは代替確率が高くなりました。ジグソーパズル型(答えがみえる)ではなく、レゴ型の(必ずしも正解がない)仕事に、人間はソフトとしていくといいのではないかとのことでした。

職業別代替可能確率の推計結果

15%以下

大分類	中分類	小分類	細分類	代替可能確率						
管理的職業	法人・団体の管理職員	会社の管理職員	部長	2.7%						
			旅行支店長	1.5%						
専門的・技術的職業	研究者	研究者	医学研究者	1.5%						
			エコノミスト	0.4%						
			化学者	23.5%						
			工学技術研究者	6.9%						
			細菌学研究者	27.9%						
			社会学研究者	0.5%						
			情報工学研究者	2.0%						
			植物学者	4.0%						
			心理学研究者	0.2%						
			人類学者	0.6%						
			数学者	4.4%						
			政治学者	2.9%						
			生理学研究者	11.2%						
			哲学者	4.1%						
			電気・電子工学研究者	5.2%						
			動物学者	1.5%						
			土木・建築工学研究者	5.9%						
			漢学研究者	7.3%						
			バイオテクノロジー研究者	41.9%						
			物理学者	17.2%						
			法学者	51.0%						
			メカトロニクス研究者	7.3%						
			薬学研究者	36.2%						
			歴史学者	1.0%						
			農林水産技術者	農林水産技術者	農林水産技術者	水産技術者	4.4%			
						畜産技術者	4.9%			
						農業改良員	3.4%			
						農業技術者	54.0%			
						林業技術者	7.0%			
			開発技術者	食品開発技術者	食品開発技術者	醸造技術者	3.7%			
						食品技術者	26.5%			
						食品冷凍技術者	44.1%			
						製菓技術者	17.4%			
						電気・電子・電気通信開発技術者	電気・電子・電気通信開発技術者	電気・電子・電気通信開発技術者	電気技術者(強電)	88.9%
									電気通信技術者	66.8%
									電子機器技術者	21.7%
放送電機装置技術者	27.6%									
半導体技術者	88.1%									
機械開発技術者	機械開発技術者	機械開発技術者				一般機械技術者	87.6%			
						印刷機械製造技術者	28.5%			
						エンジン設計技術者	10.8%			
						金型設計技術者	89.4%			
						精密機械技術者	36.1%			
						プラント設計技術者	57.2%			
			自動車設計技術者	4.4%						

	輸送用機器開発技術者	航空機技術者	39.9%
		造船技術者	68.3%
	金属製造・材料開発技術者	圧延技術者	3.3%
		金属精錬技術者	11.4%
		鍛造技術者	79.9%
		鋳造技術者	70.5%
		電気精錬技術者	5.0%
	化学品開発技術者	高分子化学技術者	6.3%
		石油精製技術者	70.7%
		バイオケミカル技術者	19.9%
	他に分類されない開発技術者	原子力技術者	88.1%
		製紙技術者	71.6%
	窯業製品開発技術者	セメント製造技術者	19.6%
		陶磁器技術者	18.0%
		ファインセラミックス製造技術者	76.6%
製造技術者	他に分類されない自動車開発技術者	車両検査技術者(鉄道)	75.4%
	化学品製造技術者	分析化学技術者	94.1%
	他に分類されない製造技術者	生産・品質管理技術者	58.4%
建築・土木・測量技術者	建築技術者	建築施工管理技術者	10.7%
		建築設計技術者	9.0%
	土木技術者	河川技術者	10.8%
		橋りょう技術者	26.7%
		森林土木技術者	5.3%
		下水道技術者	2.9%
		鉄道線路設計技術者	73.1%
		道路技術者	41.6%
		土木施工管理技術者	27.6%
		土木設計技術者	24.8%
	測量技術者	測量士	97.3%
情報処理・通信技術者	システムコンサルタント	システムエンジニア(マーケティング)	1.1%
	システム設計技術者	システムエンジニア(ITアーキテクト)	13.3%
	情報処理プロジェクトマネージャ	システムエンジニア(プロジェクトマネジメント)	9.2%
	ソフトウェア開発技術者	システムエンジニア(ITスペシャリスト)	35.2%
		システムエンジニア(アプリケーションスペシャリスト)	11.4%
		システムエンジニア(ソフトウェア開発)	14.7%
		プログラマー	94.2%
	システム運用管理者	カスタマーエンジニア	56.0%
その他の技術者	その他の技術者	環境衛生技術者	73.8%
		公害防止管理者	84.6%
		産業廃棄物処理技術者	78.2%
医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	医師	外科医	0.2%
		産婦人科医	0.7%
		小児科医	0.2%
		精神科医	0.1%
		内科医	0.6%
	歯科医師	歯科医師	0.4%
	獣医師	獣医師	1.0%
	薬剤師	薬剤師	38.8%

(参考資料7) 職業別代替可能確率

保健師、助産師、看護師	保健師	保健師	2.1%	
	助産師	助産師	0.2%	
	看護師・看護師	看護師	1.3%	
医療技術者	診療放射線技師	診療放射線技師	62.4%	
	臨床工学技士	臨床工学技士	48.1%	
	臨床検査技師	臨床検査技師	77.6%	
	理学療法士	理学療法士	0.4%	
	作業療法士	作業療法士	0.1%	
	視能訓練士、言語聴覚士	言語聴覚士	0.1%	
		視能訓練士	33.5%	
その他の保健医療の職業	歯科衛生士	歯科衛生士	61.5%	
	歯科技工士	歯科技工士	74.5%	
	栄養士、管理栄養士	栄養士	7.3%	
	あん摩マッサージ指圧師、はり師、	あんまマッサージ指圧師	1.2%	
		はり師・きゅう師	0.2%	
	柔道整復師	1.1%		
	他に分類されない保健医療の職業	鍼灸検査士	29.8%	
社会福祉の専門的職業	福祉相談・指導専門員	児童相談員	1.7%	
		福祉事務所ケースワーカー	7.2%	
	福祉施設指導専門員	児童厚生員	0.9%	
		社会福祉施設指導員	0.8%	
	保育士	保育士	0.3%	
	その他の社会福祉の専門的職業	医療ソーシャルワーカー	0.7%	
		ケアマネージャー	1.0%	
		福祉用具専門相談員	10.5%	
	法務の職業	裁判官	裁判官	11.7%
		弁護士	弁護士	1.8%
弁理士		弁理士	92.1%	
司法書士		司法書士	78.0%	
その他の法務の職業		土地家屋調査士	89.6%	
経営・金融・保険の専門的職業		公認会計士	公認会計士	85.9%
	税理士	税理士	92.5%	
	社会保険労務士	社会保険労務士	79.7%	
	金融・保険専門職	アクチュアリー	45.8%	
		証券アナリスト	11.1%	
	その他の経営・金融・保険	経営コンサルタント	6.3%	
		中小企業診断士	0.2%	
		ファイナンシャル・プランナー	22.2%	
	教育の職業	幼稚園教員	幼稚園教員	0.3%
		小学校教員	小学校教員	0.3%
中学校教員		中学校教員	0.2%	
高等学校教員		高等学校教員	1.1%	
特別支援学校教員		盲・ろう・養護学校教員	0.2%	
高等専門学校教員		高等専門学校教員	3.0%	
大学教員		大学・短期大学教員	0.2%	
その他の教育の職業		研修施設教員	4.2%	
		自動車教育所指導員	41.7%	
		職業訓練指導員	2.7%	

		専門学校教員	4.0%
		日本語教師	0.3%
		法務教官	0.7%
宗教家	宗教家	宗教家	4.4%
著述家、記者、編集者	著述家	エッセイスト	2.6%
		絵本作家	2.4%
		コピーライター	0.8%
		作詞家	0.9%
		シナリオライター	0.7%
		小説家	2.4%
		評論家	1.0%
		翻訳者	67.1%
	記者	雑誌記者	1.7%
		新聞記者	2.4%
		スポーツライター	0.6%
		テクニカルライター	72.9%
		デスク	0.4%
		トラベルライター	4.9%
		フリーライター	0.8%
		放送記者	0.4%
	編集者	映像編集者	1.5%
		雑誌編集者	0.4%
		図書編集者	0.3%
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	画家、書家、漫画家	イラストレーター	2.1%
		画家	9.2%
		書家	4.5%
		テクニカルイラストレーター	57.1%
		マンガ家	1.1%
	工芸美術家	ガラス工芸家	6.2%
		陶芸家	19.2%
	デザイナー	インテリアコーディネーター	0.6%
		インテリアデザイナー	0.3%
		WEBクリエイター	2.8%
		グラフィックデザイナー	0.4%
		クラフトデザイナー	3.2%
		ゲームクリエイター	0.2%
		工業デザイナー	1.0%
		広告デザイナー	1.4%
		CGデザイナー	3.7%
		ジュエリーデザイナー	0.9%
		ディスプレイデザイナー	0.3%
		テキスタイルデザイナー	2.9%
		ファッションデザイナー	0.5%
		ブックデザイナー	2.7%
		フラワーデザイナー	0.2%
	写真家、映像撮影者	映画カメラマン	0.3%
		商業カメラマン	0.6%
		テレビカメラマン	0.3%
		報道カメラマン	0.6%
音楽家、舞台芸術家	音楽家	クラシック音楽家	0.8%
		作曲家	1.0%

		声楽家	0.8%
		ピアニスト	2.0%
		ミュージシャン	0.8%
	俳優	声優	1.3%
		テレビタレント	0.9%
		俳優	0.7%
	プロデューサー、演出家	映画監督	0.7%
		舞台演出家	0.7%
		舞台美術家	0.5%
		プロデューサー	0.3%
		放送ディレクター	0.3%
	演芸家	落語家	1.5%
		コメディアン	1.7%
事務的職業	その他の専門的職業	図書館司書	41.5%
		学芸員	0.8%
		学校カウンセラー	0.2%
		カウンセラー	0.2%
		キャリアカウンセラー(職業相談員)	20.9%
		教育カウンセラー	0.2%
		産業カウンセラー	0.2%
		アウトドアインストラクター	0.3%
	個人教師	英会話教師	1.1%
		音楽教室講師	1.0%
		学習塾教師	1.8%
		スポーツインストラクター	0.4%
	通信機器操作員	航空管制官	94.3%
		テレビ・ラジオ放送技術者	7.0%
		録音エンジニア	0.7%
	他に分類されない専門的職業	アートディレクター	0.5%
		アナウンサー	0.7%
		大訓練士	0.6%
		気象予報士	10.5%
		行政書士	93.1%
		広告ディレクター	0.2%
		国際協力専門家	0.1%
		社会教育主事	0.3%
		手話通訳者	1.1%
		スタイリスト	0.7%
		速記者	95.0%
		調査員	3.5%
		通関士	98.8%
		通訳者	2.6%
		ディスクジョッキー	0.4%
		ピアノ調律師	16.2%
		フードコーディネーター	0.2%
		不動産鑑定士	84.0%
		料理研究家	1.0%
		レコードプロデューサー	0.3%
		芸能マネージャー	0.7%
一般事務的職業	総務事務員	広報事務員	17.7%
		学校事務員	99.5%
	人事事務員	教育・研修事務員	95.7%

		人事係事務員	98.8%	
	企画・調査事務員	商品開発部員	1.0%	
		百貨店販売促進部員	3.1%	
		マーケティング・リサーチャー	0.7%	
	受付・案内事務員	受付係	96.6%	
		秘書	94.5%	
	電話応接事務員	通信販売受付事務員	97.9%	
		テレフォンアポインター	74.9%	
		電話交換手	94.2%	
	総合事務員	一般事務員	99.7%	
	医療・介護事務員	医療事務員	99.6%	
	その他の一般事務的職業	行政事務員(国)	97.2%	
		行政事務員(県市町村)	97.9%	
		国郡公務員	78.4%	
		診療情報管理士	99.6%	
		パークレンジャー	1.8%	
会計事務的職業	現金出納事務員	税務職員	94.0%	
	銀行等窓口事務員	銀行窓口係	99.4%	
	経理事務員	経理事務員	99.8%	
	その他の会計事務的職業	会計監査係員	97.8%	
		原簿計算係	92.2%	
		物品購買事務員	95.1%	
生産関連事務的職業	生産現場事務員	生産現場事務員	99.3%	
	出荷・受荷係事務員	クリーニング取次店員	98.7%	
		検収・検品係員	99.3%	
		出荷・発送係員	98.8%	
		商品管理係	67.7%	
		DPEショップ店員	76.5%	
		保管・管理係員	99.4%	
営業・販売関連事務的職業	営業・販売事務員	貸付係事務員	99.4%	
		商社営業部員	18.9%	
		損害査定係事務員	48.7%	
		損害保険調査員	47.4%	
		デパート仕入部員	7.3%	
		貿易事務員	98.4%	
		保険事務員	99.4%	
		旅行会社カウンター係	0.2%	
		その他の営業・販売関連事務的職業	チェーン店スーパーバイザー	6.4%
外勤事務的職業	その他の外勤事務的職業	検計員	99.7%	
運輸・郵便事務的職業	旅客・貨物係事務員	駅務員	97.8%	
		空港接客係	4.1%	
		有料道路料金収受員	98.2%	
		船舶運航管理事務員	18.7%	
	運行管理事務員	タクシー配車オペレーター	66.4%	
		ディスパッチャー	49.8%	
		鉄道運輸計画・運行管理員	95.0%	
		道路貨物運行管理事務員	66.9%	
		郵便事務員	99.5%	
事務用機器操作の職業	データ入力係員	データ入力係	99.5%	
販売的職業	商品販売的職業	小売店主・店長	5.7%	

		茶小売店主・店員	43.2%
		八百屋・魚屋・肉屋店主	56.7%
		金属材料卸売店員	84.1%
	卸売店主・店長	OA機器インストラクター	59.3%
	小売店販売員	OA機器販売員	79.0%
		ガソリンスタンド・スタッフ	32.8%
		玩具店員	70.6%
		携帯電話販売店員	36.6%
		化粧品販売員	17.1%
		コーヒーショップ店員	34.8%
		古書店員	16.8%
		コンビニ店員	91.6%
		酒・調味料販売店員	66.1%
		自転車販売店員	42.8%
		自動車販売員	25.5%
		シューフィッター	2.2%
		書店員	74.1%
		スーパー店員	99.2%
		スポーツ用品店員	83.8%
		DIY店員	77.9%
		料理品販売店員(惣菜・弁当)	45.8%
		ディスカウントストア販売店員	41.5%
		デパート店員	5.9%
		電器店員	24.0%
		ファッション商品販売員	13.6%
		フラワーショップ店員	11.6%
		文具具小売店員	80.0%
		米穀店店員	72.1%
		ペットショップ店員	28.7%
		園芸技術販売員	51.7%
		メガネ調整・加工工	33.3%
		レコード店員	22.2%
		レジ係	99.7%
		卸売・商品実演販売員	94.1%
		繊維卸店員	71.6%
		商品訪問・移動販売員	2.2%
		列車内販売員	32.2%
		有価証券売買・仲立人、全額仲立人	10.1%
		保険代理人、保険仲立人	69.6%
		証券外務員	68.4%
		ティールール	18.2%
		質屋店主・店員	14.3%
		その他の販売類似の職業	98.3%
		せり人	61.9%
		宝くじ販売人	3.6%
		ブレイガイド店員	9.5%
		医薬品営業員	75.9%
		医薬情報担当者	7.3%
		通信・情報システム営業員	52.7%
		システムエンジニア(セールス)	12.9%
		金融・保険営業員	3.3%
		生命保険外務員	
		不動産営業員	
		住宅・不動産営業員	
		印刷営業員	
		その他の営業の職業	
		広告営業員	

		他に分類されない営業の職業	商品販売外交員	22.7%	
		その他の営業の職業	デパート外務部員	7.5%	
		サービスの職業	家政婦(夫)、家事手伝	82.7%	
		家庭生活支援サービスの職業	家政婦(夫)	1.1%	
		介護サービスの職業	施設介護員	1.6%	
			社会福祉施設寄母・寄父	4.3%	
			訪問介護員	2.6%	
		保健医療サービスの職業	その他の保健医療サービスの職業	2.6%	
		生活衛生サービスの職業	理容師	1.2%	
			美容師	1.1%	
			美容サービス職	メイクアップアーティスト	0.2%
				エステティシャン	3.0%
				さもの着付け指導員	14.4%
				ネイル・アーティスト	0.3%
			クリーニング職	クリーニング師	88.9%
		飲食調理の職業	調理人	26.6%	
				板前	48.7%
				機内食製造工	99.3%
				給食調理人	21.8%
				コック	29.0%
				すし職人	26.6%
				そば・うどん調理人	19.9%
				中華料理調理人	82.1%
				ラーメン調理人	0.2%
			バーテンダー	1.0%	
		接客・給仕の職業	飲食店主・店長	43.8%	
				ハンバーガー店マネージャー	0.6%
				レストラン支配人	0.5%
			旅館・ホテル支配人	2.1%	
			飲食物給仕係	0.5%	
			ホールスタッフ	92.0%	
			旅館・ホテル・乗務員	12.3%	
			客室乗務員	98.7%	
			ホテル客室係	14.8%	
			ホテルフロント係	48.7%	
			キャディ	12.3%	
			ゲームセンター店員	20.6%	
			パチンコ店員	21.7%	
			遊園地スタッフ		
		居住施設・ビル等の管理の職業	寄宿舎・寮管理人	98.9%	
			寄宿舎・寮・マンション管理人	97.8%	
			駐車場・駐輪場管理人		
		駐車場・駐輪場管理人	駐車場管理人	0.5%	
		その他のサービスの職業	送迎員、観光案内人	1.3%	
			ツアーコンダクター	51.2%	
			物品賃貸人	99.2%	
			広告知任人	2.5%	
			モデル	12.1%	
			俳優・女優	6.5%	
			俳優・女優	1.2%	
			トリマー	0.5%	
			他に分類されないサービスの職業	アロマセラピスト	

			カイロプクター	1.2%
			結婚式場スタッフ	2.1%
			日用品修理ショップ店員	97.4%
			リフレクソリスト	36.3%
保安の職業	自衛官	自衛官	海上自衛官	62.5%
			航空自衛官	92.3%
			陸上自衛官	33.2%
	司法警察職員	警察官	警察官	16.7%
		海上保安官	海上保安官	52.2%
その他の保安の職業	看守	刑務官	刑務官	94.7%
		消防員	救急救命士	13.8%
			消防士	58.5%
		警備員	警備員	97.8%
		他に分類されない保安の職業	ガス器具検査工・漏れ点検員・漏えい検査員	78.4%
			道路パトロール隊員	99.5%
農林漁業の職業	農業の職業	農耕作業員	稲作農業者	82.6%
			花き栽培者	55.5%
			果樹栽培者	59.2%
			ハウス野菜栽培者	75.3%
			畑作農業者	71.4%
		養蚕作業員	さきう職員	69.0%
			動物園飼育スタッフ	1.9%
			酪農家	92.0%
		植木職・造園師	植木職	16.9%
			造園師	9.7%
林業の職業	育林作業員	林業作業員	林業作業員	11.5%
漁業の職業	漁労作業員	沿岸漁業者	沿岸漁業者	26.6%
		水産養殖作業員	水産養殖業者	60.4%
			水族館飼育スタッフ	2.6%
生産工程の職業	生産設備制御・監視の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断)	製鉄・製鋼	製鋼工	56.5%
		鋳造・鍛造設備制御・監視員	鋳造工	99.5%
			鍛造工	99.0%
		金属プレス設備制御・監視員	金属プレス工	98.8%
		鍛工・製缶設備制御・監視員	鍛造工	6.1%
		めっき・金属研削設備制御・監視員	金属研削工	97.3%
			めっき工	99.3%
		金属溶接・溶断設備制御・監視員	溶接工	93.6%
		その他の生産設備制御・監視の職業	圧延工	92.2%
			金属線製品・くさ・ばね製造工	93.4%
			金属熱処理工	96.8%
	生産設備制御・監視の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断を除く)	化学製品生産設備制御・監視員	医薬品製造員	83.5%
			化学製品製造オペレーター	88.0%
			化学機械工	72.8%
			化粧品製造工	94.7%

			石油精製オペレーター	95.3%
			石けん・洗剤・油動製品製造オペレーター	7.4%
			塗料・絵具・インキ製造工	87.0%
	窯業製品生産設備制御・監視員		ガラス食器製造工	35.3%
			セメント生産オペレーター	98.4%
			陶磁器工	22.9%
	食品生産設備制御・監視員		かん詰・びん詰・レトルト食品製造工	94.6%
			製パン工	98.6%
			製粉工	96.7%
			乳製品製造工	92.7%
			めん精製造工	96.3%
			冷凍加工食品製造工	93.4%
			清涼飲料製造工	89.0%
	飲料・たばこ生産設備制御・監視員		清涼飲料製造工	12.0%
	紡織・衣服・繊維製品生産設備制御・監視員		コーヒー豆ばい(給)用工	87.8%
			織布製織工	77.3%
			染色工	75.9%
			紡績溶縮工	75.9%
	木製製品・バルブ・紙		加工紙製造工	96.5%
			機械木工	96.6%
			合板工	65.3%
			紙器製造工	98.2%
			製材工	61.7%
			バルブ工・紙料工	87.4%
		印刷・製本設備制御・監視員	印刷作業員	83.2%
			製本作業員	99.7%
	ゴム・プラスチック製品生産設備制御・監視員		ゴム製品成形工(タイヤ成形を除く)	98.2%
			タイヤ製造工	81.6%
			プラスチック製品成形工	98.2%
	その他の生産設備制御・監視の職業		電子・電気装置製造工	74.0%
			粘着テープ製造工	89.6%
	生産設備制御・監視の職業 (機械組立)	一般機械器具組立設備制御・監視員	機械組立工	94.4%
		電気機械器具組立設備制御・監視員	IC生産オペレーター	99.0%
			AV・通信機器組立・修理工	99.5%
			記録媒体製造工	38.3%
			電子部品製造工	95.8%
			時計組立工	35.6%
		計量計測機器	レンズ研磨工・調整工	81.1%
	金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断の職業	微細制御金属工作機械工	NC研削盤工	96.6%
			NC旋盤工	97.0%
			NCフライス盤工	92.2%
			放電加工機工	91.5%
			マシニングセンター・オペレーター	96.6%
		鍛工・製缶工	製かん工	92.3%
			造船工	27.0%
		板金工	建築板金工	90.7%
			自動車板金工	88.4%
		金属製品製造工	金型工	80.4%
			金属製家具・寝具製造工	91.2%

製品製造・加工処理の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断を除く)	工業・土石製品製造工	石工	26.7%
	精製・製粉・調味食品製造工	しょうゆ製造工	41.2%
		みそ製造工	72.6%
	パン・菓子製造工	洋菓子職人	44.5%
		和菓子職人	67.2%
	豆腐・こんにゃく・ふ製法工	豆腐職人	83.8%
	食肉加工品製造工	ハム・ソーセージ製造工	86.6%
	水産物加工工	水産物加工工	98.3%
		水産物加工工	83.0%
	弁当・惣菜類製造工	惣菜製造工	99.2%
	野菜つけ物工	野菜つけ物工	87.1%
	飲料・たばこ製造工	清酒製造工	18.2%
		ビール製造工	56.0%
		ワイン製造工	5.5%
	紡織工	絹製造工	24.3%
		絹製造工	58.6%
	衣服・繊維製品製造工	テーラー	7.9%
		婦人・子供服仕立職	11.6%
		ミシン縫製工	98.8%
		和裁士	95.1%
	木製製品製造工	家具工	30.2%
	印刷・製本作業員	DTPオペレーター	89.6%
		電算写植オペレーター	98.9%
		プロセス製版オペレーター	99.4%
	その他の製品製造・加工処理の職業	印刷師	7.8%
		家具類内装工	17.2%
		かばん・荷物製造工	77.4%
		玩具製造工	23.7%
		貴金属・玉石加工工	12.0%
		靴製造工	51.9%
		漆器工	24.2%
		エレベーター・搬入工	93.3%
機械組立の職業	一般機械器具組立工	医療用画像放射線機器組立工	48.9%
	電子応用機械器具組立工	電子複写機組立・調整工	2.9%
		パソコン組立・調整工	54.9%
	民生用電子・電気機械器具組立工	民生用電子・電気機械器具組立・修理工	66.8%
	自動車組立工	自動車組立工	98.3%
	輸送用機械器具組立工	自動車製造工	94.6%
		鉄道車両組立・整備工	85.3%
	計量計測機器組立工	計器組立工	99.4%
	光学機械器具組立工	カメラ組立工	98.9%
機械整備・修理の職業	一般機械器具修理工	機械修理工	91.6%
		紡織保全工	87.6%
	電気機械器具修理工	家電修理エンジニア	66.6%
		電子計算機保守員(IT保守員)	95.7%
	自動車整備工	自動車整備工	96.8%
	輸送用機械器具整備・修理工	航空整備士	87.1%

製品検査の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断)	金属材料検査工	金属材料製造検査工	95.1%	
	金属加工・溶接検査工	金属加工・金属製品検査工	99.4%	
		非破壊検査員	97.0%	
製品検査の職業 (金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断を除く)	紡織・衣服・繊維製品検査工	繊維製品検査工	99.0%	
	生産関連・生産類似の職業	塗装工	建築塗装工	46.1%
		自動車塗装工	97.2%	
	画工・看板制作工	アニメーター	7.2%	
		看板制作者	15.1%	
	製図工	CADオペレーター	99.6%	
	バタンナー	バタンナー	51.9%	
	その他の生産関連・生産類似の職業	写真・映像処理オペレーター	91.3%	
輸送・機械運転の職業	鉄道運転の職業	電車運転士	電車運転士	99.8%
自動車運転の職業	バス運転手	観光バス運転者	73.4%	
		路線バス運転者	96.7%	
	乗用自動車運転手	タクシー運転者	95.4%	
	貨物自動車運転手	トラック運転者	94.7%	
	その他の自動車運転の職業	テストドライバー	52.4%	
船舶・航空機運転の職業	航海士・乗航士	航海士	63.9%	
	船舶機関士・機関士	船舶機関士	71.6%	
	航空機操縦士	パイロット	5.1%	
その他の輸送の職業	車掌	観光バスガイド	0.4%	
		鉄道車掌	94.6%	
定置・建設機械運転の職業	発電員、変電員	発電員	98.4%	
	ボイラーオペレーター	ボイラーオペレーター	98.9%	
	建設機械運転工	建設機械オペレーター	94.1%	
		さく井工・ボーリング工	50.7%	
	ビル設備管理員	ビル施設管理技術者	98.5%	
		ビル施設管理者	93.2%	
建設・採掘の職業	建設解体工事の職業	型枠大工	型枠大工	86.2%
		とび工	とび	73.6%
		取りこわし作業員	70.2%	
		鉄筋工	鉄筋工	92.0%
	建設の職業 (建設解体工事の職業を除く)	大工	大工	72.6%
		ブロック積工、タイル張工	建築ブロック工	58.3%
			タイル工・れんが工	92.5%
		屋根ふき工	屋根ふき工	48.5%
		左官	左官	55.4%
		畳工	畳工	72.7%
		配管工	配管工	37.8%
		内装工	サッシ工	97.0%
			内装工	80.9%
		防水工	防水工	63.2%

	電気工事の職業	送電線架線・敷設作業員	送電線架線工	93.3%
		電気通信設備作業員	電気通信設備工	56.3%
		電気工事作業員	電工	62.8%
	土木の職業	土木作業員	建設作業員	96.6%
			舗装作業員	74.7%
		鉄道線路工事作業員	鉄道線路工事作業員	82.4%
		ダム・トンネル掘削作業員	トンネル掘削作業員	25.3%
	採掘の職業	ジャリ・砂・粘土採取作業員	ジャリ・砂・粘土採取作業者	37.1%
運搬・清掃・包装等の職業	運搬の職業	郵便集配員、電報配達員	郵便外務員	99.5%
		港湾荷役作業員	港湾荷役作業員	91.8%
		陸上荷役・運搬作業員	積卸作業員	99.7%
			引越作業員	54.1%
			リサイクル品回収員	87.3%
		倉庫作業員	倉庫作業員	99.4%
		配達員	新聞配達員	99.1%
			清涼飲料ルートセールス員	99.0%
			宅配便配達員	98.6%
			バイク便配達員	99.1%
		荷造作業員	こん包工	99.7%
清掃の職業	ビル・建物清掃員	ビル清掃員	ビル清掃員	99.5%
	ごみ収集・し尿汲取作業員	じんかい収集作業員	じんかい収集作業員	99.6%
	産業廃棄物収集作業員	産業廃棄物収集運搬作業員	産業廃棄物収集運搬作業員	99.1%
	その他の清掃の職業	産業洗浄工	産業洗浄工	93.0%
		列車清掃員	列車清掃員	99.6%
包装の職業	製品包装作業員	包装作業員	包装作業員	99.7%
その他の運搬・清掃・包装等の職業	他に分類されない運搬、清掃、	グリーンキーパー/ グリーンコーディネーター	グリーンキーパー/ グリーンコーディネーター	3.4%

4. 僕たちの未来のデザイン

4. 僕たちの未来のレッスン

(1) これまでの議論の整理

今日の言及への学習は、現在、そして、僕らの未来にかかわる人口減少社会という、逃すことが難しい問題をテーマとしました。なぜなら、この未来の中を、僕らは成長していくからです。本稿の基本的な予測はこのままだと、100年後には人口は半減し、また今後毎年のように財政悪化や人手不足で社会問題が増えていくというものです。この悪化を変える分岐点として、①出生率の引き上げ、②外国人労働者、移民の積極的受け入れがありました。③歳出見直しによる赤字削減、特に社会保障制の改革も課題です。④人口減少による労働不足について、人工知能やロボットの活用も積極的にやる方がいいと思いました。さらに、移民を進めるには、⑤「日本のファン」を増やすことが重要です。外国の方々も日本で住みたいと思わないと意味がないからです。そのために、⑥日本がもっと国際色豊かな国になる必要があり、多様な文化や言語も受け入れる社会が一つの方向性です。大変な課題ですが、僕らの未来を少しでも明るくすべく、父母たちと共により良い社会に向けた考えを続けます。

(2) 僕たちの未来を良くするには？(まとめ)

人口減少社会に関する問題、縮小ニッポンの問題、財政の問題、移民受け入れにからむ問題など、小学生の僕たちが理解するには難しい内容でしたが深刻な問題だということは分かりました。

そうした難しい話がありながらも、未来に向けて日々成長する若い僕らがいるという、確実に明るい話があります。大人になったとき、どんな仕事に就いて社会の中で貢献していけるでしょうか。人工知能やロボットの成長もあり、今ある仕事もいずれなくなるかもしれませんが、人間にしかできない、自分にしかできない仕事は何だろう？

を考えながら大人に向かってしっかり勉強したいと思います。今回も読書の点で苦労しましたが、でもたくさんのごことに触れることが出来たので、色々な本を読んでいきたいと思っています。

明るくないかもしれない未来を、少しでも明るくしていきたい。ひとりひとりの貢献は小さいかもしれないけど僕らみんなが元気で元気で元気で、未来が動き出す。そう信じて、一歩一歩前へ。

以上

5. 参考図書・参考資料

【参考図書・参考資料】

【参考図書一覧】

1. (参考図書A) 未来の年表 人口減少日本でこれから起ること

河合雅司 著

講談社現代新書 2017/6/20

2. (参考図書B) 系属小ニッポンの行野撃

NHK スペシャル取材班

講談社現代新書 2017/7/20

3. (参考図書C) 限界国家 人口減少で日本が迫られる最終選択

毛受敏浩 (めんじかとしひさ)

朝日新書、2017/6/30

4. (参考図書D) 新・13歳の人口-ワリ

村上龍、はまのゆか

幻冬舎、2010/3/29

5. (参考図書E) 誰が日本の労働力を支えるのか?

野村系総合研究所 寺田、上田、岸、森井 [共著]

東洋経済新報社 2017/4/20

6. (参考図書F) NEXT WORLD (ネクストワールド)

NHKスペシャル「NEXT WORLD」制作班 [編著]

NHK出版、2015/4/10

7. (参考図書G) 2050年の世界英「エコノミスト」誌は予測お。

英「エコノミスト」編集部

文藝春秋、2012/8/5

【参考資料・データの引用元】

1. (参考資料1) 人口減少カレンダー

参考図書A、p22~23より

2. (参考資料2) 日本の人口推計(過去・未来)

① 日本の総人口は急激に減り続ける

参考図書A、p8より

② 長期推移グラフ

参考図書B、p4-5より

③ 人口ピラミッドの変化

国立社会保障人口問題研究所

日本の将来人口(平成29年推計) p23より

(インターネットで入手可能)

3. (参考資料3) 国の財政の状況について(①~③)

財務省「日本の財政関係資料」(平成27年9月)より

(インターネットで入手可能)

4. (参考資料4) 移民を受け入れた場合、人口はこう変わる

参考図書A, p153より

5. (参考資料5) 世界の合計特殊出生率

参考図書G, p29より

6. (参考資料6) 東京の人口増減関連データ

① 東京圏の人口増減

参考図書B, p117~118

② 東京都の人口ピラミッド

参考図書B p41~42

③ 豊島区の将来予測

参考図書B, p43より

7. (参考資料7) 職業別代替可能確率

参考図書E, 巻末付録より